

# FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2

ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)

著作権および商標

© Copyright Fujitsu Limited 2014 All rights reserved

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Hyper-V、Active Directory、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware,Inc の米国 およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録 商標です。

その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

目 次

第1章	はじ	こめに	1
	1.1	対象読者	1
	1.2	表記	1
	1.3	用語	1
	1.4	使用上の注意事項	2
第2章	概要	ह 	3
	2.1	概要	3
	2.2	機能	3
第3章	デー	-タの登録	5
	3.1	登録データ作成ツール ・・・・・	5
		3.1.1 ツールの起動	5
		3.1.2 構成情報の編集	6
		3.1.3 登録データの出力	20
	3.2	SVOMへのデータ登録 ·····	21
	3.3	ISMへのデータ登録 ······	21
	3.4	Profile Managerによる機器登録 ······	22
	3.5	アラームルールの設定	22
第4章	ロク	「収集機能の設定	24
	4.1	ログ収集対象の設定	26
	4.2	ログ転送の設定	26
		4.2.1 VMware ESXiの場合の設定	26
		4.2.2 Hyper-Vの場合	32
	4.3	異常通報の設定	33
	4.4	FTPサーバの設定 ······	34
		4.4.1 FTPサーバのインストール	34
		4.4.2 FTPサーバ情報の登録	37
	4.5	通知メッセージ	39
	4.6	異常発生時の対処	40
	4.7	収集したログ	40
	4.8	メッセージー覧	42
	4.9	SVIcc調査資料収集コマンド ······	44

64

第5章	ISMのユーザーインターフェース	45
	5.1 [Facility Manager] 画面	47
	5.1.1 [ダッシュボード] タブ(富士通Modular Data Center使用時のみ表示)	47
	5.1.2 [一覧] タブ	48
	5.1.3 [グループー覧]タブ	58
	5.1.4 [レポート]タブ	61

	5.1.6 [インベントリ]タブ	67
	5.1.7 [仮想管理ソフトウェア情報] タブ	69
	5.1.8 [グループ定義]画面	75
	5.1.9 [消費電力制御設定] 画面	77
	5.1.10 [FirstSight] 画面 ·····	82
5.2	[Facility Browser] 画面  ·····	89
5.3	[ログ収集] 画面	90
	5.3.1 [ログ収集設定]画面	90
	5.3.2 [ログ収集]画面	91
5.4	アイコン・画像	91
	5.4.1 状態(ステータス)	92
	5.4.2 メッセージー覧	92

#### 第6章 エンドユーザー使用許諾契約書 …………………………… 93

6.1	高度な安全性が要求される用途への使用について	93
6.2	安全にお使いいただくために	93
6.3	改造等	93
6.4	著作権および免責事項	93
6.5	輸出管理規制について	94

# 図表目次

### 図目次

[レポート選択] 画面 - グラフ表示	 64
[グループ定義] 画面 - ラックリスト	 77

### 表目次

[センター情報編集] 画面 項目説明	7
[ラック情報編集] 画面 項目説明	8
ログ収集機能の監視対象と収集するログ	24
通知メッセージ(Trap)項目説明	39
[コンテナ] 画面 - 機器ごとに表示される詳細情報	53
[ラック] 画面 - 機器ごとに表示される詳細情報	56
[ラック] 画面 - 機器プロパティ項目	57
[ラック] 画面 - 機器プロパティ項目(表示されるセンサー)	58
[FirstSight] 画面 - 詳細情報表 項目説明 ·······	87

## 第1章 はじめに

本書では、FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager(以下ISM)のファシリティ管理機能、 および操作方法などを説明しています。

ここでは、ファシリティ管理機能を利用するにあたって理解しておいていただきたい内容を説明します。 はじめて利用される方は、事前にお読みいただくことをお勧めします。 ISM全般の機能や操作に関しては下記マニュアルを参照してください。

- FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル(共通編) (C122-0001)

また、必要に応じて下記の関連マニュアルを参照してください。

- FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル(プロファイル管理 機能編)(C122-0003)
- FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (メンテナンス支援 機能編) (C122-0004)

## 1.1 対象読者

本書は、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステム管理者、ネットワーク管 理者、ファシリティ管理者およびサービス専門家を対象とします。 ISMには、プロファイル管理機能、ファシリティ管理機能、メンテナンス支援機能があります。本書では、 ファシリティ管理の機能について説明しています。

### 1.2 表記

本書では、次の表記が使用されます。

アイコン	内容
i	重要な情報とヒントを示す。
Â	注意が必要な情報を示す。怪我、データ損失、装置破損に至る可能性のある危険性を示す。

### 1.3 用語

本書で使用している主な略語および用語は次のとおりです。

略語/用語	意味
ISM	ServerView Infrastructure Manager(本ソフトウェア)。

略語/用語	意味
BMC	Baseboard Management Controller。サーバのベースボード上に搭載され、ボードやファ
	ンなどを管理する機構。
iRMC	Remote Management Controller。BMC機能にリモート操作機能などを追加した制御機構。
	世代によってiRMC S3、iRMC S4のように名称が区別されることがある。
SVS	ServerView Suite。FUJITSU Software ServerViewシリーズのソフトウェア製品群。
SVOM	ServerView Operations Manager。
SVFAB	ServerView Fabric Manager。コンバージドファブリックスイッチやL2スイッチを管理する。
MMB	ブレードシャーシに搭載するマネジメントブレード。
ETERNUS	富士通製ストレージ装置。
vCenter	VMware社が提供する仮想環境管理ソフトウェア。
管理サーバ	ISMがインストールされているサーバ。

## 1.4 使用上の注意事項

### ■ 使用可能文字について

ISM登録データ作成時に使用できる文字は、SVOMに準拠します。 全角文字や記号(""#&~|¥+\*?/;,()など)、空白は使用できません。 ただし、入力項目によっては、半角英数字、全角英数字、全角ひらがな、全角カタカナ、またはJIS第二 水準漢字などを使用できます。

例えば、機器の管理ネットワークおよび管理OSのパスワードに対して、引用符(')、二重引用符(")、 円記号(¥)、半角スペースを除くASCII文字を使用できます。

## 第2章 概要

## 2.1 概要

ISMはServerView Operations Manager (SVOM)のアドオン機能としてインストールされます。 データセンターを構成する各ICT機器、ファシリティ機器の構成情報参照、動作状態参照、サーバの設定 変更などを行います。

ISMには、ファシリティ管理機能のほかに、プロファイル管理機能、メンテナンス支援機能があります。

次に、ISMの利用環境を構成するソフトウェアについて説明します。

- ServerView Operations Manager (SVOM)

PRIMERGYサーバの構成情報、異常検知の情報を表示します。 SVOMは、管理用サーバにインストールされています。 基本的なインストール方法および使用方法は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されている SVOMの取扱説明書を参照してください。

- ServerView ESXi CIM Provider

VMware vSphere ESXiがインストールされたPRIMERGYサーバを監視する場合、ServerView ESXi CIM Providerを使用します。

ServerView ESXi CIM Providerは、各サーバブレードおよびサーバのVMware vSphere Hypervisorに インストールされています。

基本的なインストール方法および使用方法は、「ServerView Suite ServerBooks」または「FUJITSU Server PRIMERGY マニュアル」に収録されているSV ServerView ESXi CIM Providerの取扱説明書を 参照してください。

## 2.2 機能

ファシリティ管理の主な機能は以下のとおりです。

	機能	概要					
Facility Manager		監視対象となる機器の一覧やフロア内のラック位置、空調機位置および ラック内の機器構成情報などを表示。 また、レポートの設定および表示、しきい値の設定、インベントリを表示。					
	FirstSight	データセンターを構成する機器構成を容易に把握。					
	構成管理	PRIMERGY BXシリーズのシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッ チブレード、電源、MMBなどのハードウェア構成を表示。 また、各サーバブレードまたはサーバに搭載されているCPUやメモリ、 HDDなどのハードウェアの構成、また、ハイパーバイザ上に作成された 仮想マシンの一覧などを表示。					
	ステータス管理	PRIMERGY BXシリーズのシャーシに搭載されている各機器、および PRIMERGY RXシリーズのステータスを表示。					
	レポート	CPU、メモリ、ディスク使用率を表示。					
	OSイベントログ	フィルタ機能により警告・異常のイベントから最新の20件表示。					
Facili	ity Browser	ラック、サーバ、ストレージ、スイッチなど機器の属性情報を登録デー タ作成ツールに設定する。そのツールから出力したcsvファイルをISMに 読み込むことで一括登録。					
ログリ	収集	ログ収集: PRIMERGY BXシリーズのシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッ チブレード、MMB、PRIMERGY RXシリーズのOSログ、ストレージ、 外部スイッチのログを定期的(1日1回)に収集する機能。 ログ監視: ホスト上OSのログに出力されるドライバのログ、および管理用サーバ上 のソフトウェアのソフト異常を監視して、ログ情報の収集や異常通報を 実行する機能。 異常通報: SVOMのイベントマネージャーの [アクション設定] を利用してTrapや Mail通報を行う機能。					

## 第3章 データの登録

ISMへの機器登録手順について説明します。

登録データ作成ツールでcsvファイルを出力し、出力したファイルから機器の情報を登録します。 本ツールのご使用にあたり、Microsoft ExcelがインストールされているPCが必要です。



🚹 注意

作成した登録データは、システム管理者が必ず保管してください。

## 3.1 登録データ作成ツール

登録データ作成ツールは、Excel形式のファイルです。 ファイルを編集して、構成情報を新規に作成したり、過去に作成した構成情報を読み込んで修正したりし ます。

### 3.1.1 ツールの起動

「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」に登録データ作成ツールが格納されてい ます。格納場所詳細は、DVD内のindexを参照してください。 Microsoft ExcelがインストールされているPCの任意のフォルダに、登録データ作成ツールをコピーします。

コピーしたファイルをMicrosoft Excelで開くと、ボタンと構成情報一覧表が表示されます。

<u>一括変更</u> Y		ServerViev 構成情報 ISM構成情 挿入	v Infrastructur シプレート 繊維読み込み 後	e Manager  ISM構成情報 写削	履 保存 除			必須 任意	<u>センター</u> ラック1	-"情幸版編 青幸版編	<u>集</u>		ー、ラック情報(保存		
0.4-4	1				?	?	Dent (			Death	Death	Dealthia		?	
Select	No	FacilityName	ParentName	NetAddress	Tune	Sensor	SlotNo	Community	PollInterval	No	АкезМо	Hackino	Notes	In	Model
Y	1	BX900S2	rarentranic	192 168 181 100	3	00risor A	0101110	nublic	60	1	16	10	BX900S2	1	PRIMERGY BX900 S2
	2	-	BX900S2		×	55	Ň	Partie	60		1.0				
Y	3	BX920S3-1	BX900S2	192,168,181,101	1	50	1		60	1	16	1	BX920S3	1	PRIMERGY BX920 S3
	4	-	BX920S3-1			51	1		60						
	5	-	BX920S3-1			52	1		60						
	6	-	BX920S3-1		1	53	1		60						
Y	7	BX920S3-2	BX900S2	192.168.181.102	1	50	2		60	1	16	1	BX920S3	1	PRIMERGY BX920 S3
	8	-	BX920S3-2			51	2		60						
2	9	-	BX920S3-2	5		52	2		60	2					
	10	-	BX920S3-2			53	2		60						
Y	11	BX920S3-3	BX900S2	192.168.181.103	1	50	3		60	1	16	1	BX920S3	1	PRIMERGY BX920 S3
	12	-	BX920S3-3			51	3		60						
	13	-	BX920S3-3			52	3		60						
	14	-	BX920S3-3			53	3		60						
Y	15	BX920S3-4	BX900S2	192.168.181.104	1	50	4		60	1	16	1	BX920S3	1	PRIMERGY BX920 S3
2	16	-	BX920S3-4			51	4		60			2	-		
	17	-	BX920S3-4	2		52	4		60			1			
M	18	- DV00050 5	BX920S3-4	100 100 101 105		53	4		60		10		DV000C0		DDIMEDOV DV000 CO
Y	19	BX92053-5	BX90052	192.108.181.105	1	50	5		60		16		BX32023	1	PROMERGY BX920 S3
	20	-	DX92038-5	-		51	0		60	-		-			
8	21	-	DV030C3-E			02 E0	0		00						
	22	DV000C0_6	DV000C0	100 160 101 106	1	03 50	6		00	1	16	1	DV000C0	1	DDIMEDOV DV000 C0
Т	20	DV92020_0	DA30032	132.100.101.100	L 1	00	0		00		10		DV95009	_	FRUMERICI BAS20 33

### 3.1.2 構成情報の編集

構成情報一覧表の各セルの情報を編集します。



図中の(1)~(9)のボタンと一覧について、それぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	[ISM構成情報 読み込み] ボ	過去に作成した構成情報を読み込む。
	タン	
(2)	[ISM構成情報 保存] ボタン	作成した構成情報を出力。
		出力先:登録データ作成ツールの格納先フォルダ
		出力ファイル:facility_list.csv、server_list.csv
(3)	[挿入] ボタン	行を挿入。
		挿入する行の [FacilityName] セルを選択してクリックする。
(4)	[複写] ボタン	行を複写。
		複写する行の [FacilityName] セルを選択してクリックする。
		クリックすると、1つ上に複写した行が追加される。
(5)	[削除] ボタン	行を削除する。
		削除する行の [FacilityName] セルを選択してクリックする。

No.	項目	説明
(6)	[センター情報編集] ボタン	[センター情報編集] 画面を表示。
		表示される項目については「[センター情報編集] 画面 項目説明」参照。
(7)	[ラック情報編集] ボタン	[ラック情報編集] 画面を表示。
		表示される項目については「[ラック情報編集] 画面 項目説明」参照。
(8)	[センター、ラック情報 保	作成した構成情報のうち、センター情報およびラック情報のみを出力。
	存] ボタン	出力先:登録データ作成ツールの格納先フォルダ
		出力ファイル:facility_list.csv
(9)	構成情報一覧	機器の構成情報一覧。
		情報の編集のほか、一覧から構成情報を出力するときの対象を選択できる。
		[Output Select] 列で「Y」と指定された行が構成情報として出力される。

[センター情報編集] 画面の各項目について説明します。

表中の [変更] 欄の見方は以下のとおりです。

- 「可」:初期設定値から変更可。
- 「不可」:初期設定値から変更不可。
- 「禁止」:初期設定値から変更禁止。誤って編集しないよう注意が必要。

項目	変更	説明
ID	不可	IDを表示。
		初期設定値:1
名称	可	センター名称を表示。
		初期設定値:テンプレートに設定されている値
ベンダID	不可	ベンダーIDを表示。
		初期設定値:1
設置場所	可	センター設置場所を指定。
		初期設定値:空白
ラック列	不可	ラック列を表示。
		初期設定値:1
ラック数	可	ラック数を表示。
アプリURL	禁止	コンテナコンテキストメニューより起動するWebアプリケーションURL
		を表示。
		初期設定値:空白
型名	禁止	型名を表示。
		初期設定値:空白
設置年月日	可	設置年月日を指定。
ローカルノート	可	コメントを指定
[登録] ボタン	-	指定した項目の値を登録。
		登録せずに終了するには、画面右上の [×] ボタンをクリック。

[センター情報編集] 画面 項目説明

[ラック情報編集] 画面の各項目について説明します。 表中の [変更] 欄の見方は以下のとおりです。

- 「可」:初期設定値から変更可。
- 「不可」:初期設定値から変更不可。
- 「禁止」:初期設定値から変更禁止。誤って編集しないよう注意が必要。

項目	変更	説明
ID	可	IDを表示。
ラック数	可	ラック数を表示。
ラック番号	可	ラック番号を表示。
		初期設定値:1
ユニット数	可	ラックのユニット数を表示。
ラック名	可	ラック名を表示。
		初期設定値:テンプレートに設定されている値
ベンダー	可	ベンダー名を表示。
		初期設定值:Fujitsu
型名	可	型名を表示。
設置年月日	可	ラック設置年月日を指定。
ローカルノート	可	コメントを指定。
[登録] ボタン	_	指定した項目の値を登録。
		登録せずに終了するには、画面右上の[×]ボタンをクリック。

[ラック情報編集] 画面 項目説明

#### ■ 富士通Modular Data Centerのファシリティ機器データの入力

ファシリティ機器のデータは、テンプレートとして最大構成時の初期値があらかじめ入力されています。 導入する構成に合わせて各機器のNetAddress(IPアドレス)など、データを修正します。

#### • POD (Programmable Operation Display)の登録

分電盤、空調ユニットの操作モニターです。

- [FacilityName] が「POD」の行の [Model]、[System]、[SerialNo]、[ProductNo]、[Application] など必 要な情報を入力します。

[FacilityName] は修正可能ですが、子情報として、分電盤と空調ユニットがあり、それらの情報の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

#### 分電盤の登録

分電盤には、サーバA系、サーバB系、空調A系、空調B系の4つの電源系統があります。

- [FacilityName] が「PowerBoard」の行に[Model]、[System]、[SerialNo]、[ProductNo] など必要な情報を入力します。

なお、初期状態で [FacilityName] は「PowerBoard」の名称となっていますが、任意の名称に変更できます。その場合、子情報の行の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

● 空調ユニットの登録

空調ユニットは、最大4台設置でき、最小構成2台(冗長構成)からの運用が可能です。テンプレートで

は4台構成となっているため、導入構成に従い不要な情報を削除します。

 [FacilityName] が「Cooling1」~「Cooling4」の行に空調ユニットの[Model]、[System]、 [SerialNo]、[ProductNo]など、必要な情報を入力します。

なお、初期状態で [FacilityName] は「Cooling1」~「Cooling4」の名称となっていますが、任意の名称に変更できます。その場合、子情報の行の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

2. 空調ユニットが4台設置されていない場合、不要な情報を削除します。

例えば、空調ユニット4が設置されていない場合、以下のように [FacilityName] が「Cooling4」の行 と、[ParentName] が「Cooling4」の行の [FacilityName] の列を選択し、[削除] ボタンをクリックします。



3. 以下のダイアログボックスが表示されたら、[No.] が正しいことを確認して [OK] ボタンをクリックします。

「Cooling4」に関するデータが削除されます。

Na.68-77の削除を行	います
OK	キャンセル

• IF (インターフェース) コンバータの登録

IFコンバータは、2台設置されます。1台目で照明、ドア開閉(コールドアイル側、ホットアイル側、外部、 機器搬入口)、火災予兆検知、火災検知の接点状態を検出しTrapを送信します。 2台目で電力系統(サーバA系、サーバB系、空調A系、空調B系)の漏電を検出しTrapを送信します。 - [FacilityName] が「Ifconverter1」および「Ifconverter2」の行の [Model]、[System]、[SerialNo]、 [ProductNo]、[Application] など必要な情報を入力します。

なお、初期状態で [FacilityName] は「Ifconverter1」、「Ifconverter2」の名称となっていますが、任意の名称に変更できます。その場合、子情報の行の [ParentName] もあわせて修正する必要があります。

#### ■ ICT機器のデータ入力

ラックに搭載するIT機器(サーバ、ストレージ、スイッチ)について、あらかじめ決めておいたラックの 搭載位置に従い、データを登録します。

● サーバの登録

サーバの情報は4行を登録します。それぞれの行には、CPU温度、吸気温度、消費電力、識別灯のセンサーを指定します。

【ラックマウント型サーバの場合】

1. [挿入] ボタンをクリックします。

最初に追加される行は親機器となるため、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName : サーバ名称
- NetAddress : IPアドレス
- Type:機器種別(1=富士通製 or 10=他社製)
- Sensor: CPU温度(50)
- Port/SlotNo : 0
- PollInterval : 60
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通 or 0=他社)
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY RX200 S8)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate : 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) BMCのWeb GUIのURLを入力
- 2. 吸気温度を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1で [FacilityName] に入力した機器名を指定
- Sensor:吸気温度(51)
- 3. 消費電力を追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:消費電力(52)
- 4. 識別灯を追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor: 識別灯 (53)

5. 以降、サーバを追加する場合は、手順1~4で作成した4行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタン をクリックする操作を繰り返します。このとき、複写で追加された行の以下の項目を修正します。

[FacilityName]、[ParentName]、[NetAddress]、[Type]、[RackNo]、[RackAreaNo]、[RackNumberUnits]、 [VendorID]、[EquipmentDate]

その他、[Model]、[System]、[S/N]、[ProductNo]、[Application] など任意の項目に値を入力している 場合、修正します。

【ブレードサーバの場合】(他社製ブレードサーバは個別対応となります)

1. ブレードシャーシを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName : シャーシ名称
- NetAddress : MMBのIPアドレス
- Type:機器種別(2=PRIMERGY BX400 or 3=PRIMERGY BX900)
- Sensor : 0
- Port/SlotNo : 0
- PollInterval : 60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通、0=その他)
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY BX900 S2)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate : 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) MMBのWeb GUIのURLを入力
- 2. シャーシ消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したシャーシ名称を指定
- Sensor: 消費電力 (55)
- 3. サーバブレードを登録します。

- FacilityName:サーバブレード名称
- ParentName : 手順1の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
- NetAddress : IPアドレス

- Type:機器種別(1)
- Sensor:CPU温度(50)
- Port/SlotNo:ブレードシャーシのスロット番号
- PollInterval : 60
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo: RackのU位置を指定
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通)
- RackNumberUnits : 1
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY BX920 S4)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) BMCのWeb GUIのURLを入力
- 4. 吸気温度を追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName:手順1の [FacilityName] に入力したサーバブレード名を指定
- Sensor:吸気温度(51)
- 5. 消費電力を追加します。

手順4で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:消費電力(52)
- 6. 識別灯を追加します。

手順5で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:識別灯(53)

7. 以降、同一ブレードシャーシ内のサーバブレードを追加する場合は、手順3~6で作成した4行の [FacilityName]を選択して [複写] ボタンをクリックする作業を繰り返します。

```
このとき、複写で追加された行の以下の項目を修正します。
[FacilityName]、[ParentName]、[NetAddress]、[Port/SlotNo]、[EquipmentDate]
その他、[Model]、[System]、[S/N]、[ProductNo]、[Application] など任意の項目に値を入力している
場合、修正します。
```

8. ストレージブレードを登録する場合、以下の手順で指定します。

- FacilityName:ストレージブレード名称
- ParentName : 手順1の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
- Type: 機器種別(16)
- Sensor : 0
- PortNo:ブレードシャーシのスロット番号
- RackNumberUnits : 2

- Model:モデル名称(例:PRIMERGY SX980 S2)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- 9. ファブリックスイッチブレードを登録する場合は、「● コンバージドファブリックスイッチ/コン バージドファブリックスイッチブレードの登録」を参照してください。

#### 🚺 注意

「• コンバージドファブリックスイッチ/コンバージドファブリックスイッチブレードの登録」に 記載のないコネクションブレードは未対応です。

10. ブレードサーバを追加する場合は、手順1~9を繰り返します。

【マルチノードサーバの場合】(他社製マルチノードサーバは個別対応となります)

1. シャーシを登録します。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:シャーシ名称
- Type:機器種別(4)
- Sensor : 0
- Port/SlotNo : 0
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo: RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通、0=その他)
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY CX400 S2)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- 2. サーバノードを登録します。

- FacilityName : サーバノード名称
- ParentName : 手順1で [FacilityName] で入力したシャーシ名
- NetAddress : IPアドレス
- Type:機器種別(1)
- Sensor : CPU温度(50)
- Port/SlotNo:シャーシのスロット番号
- PollInterval : 60
- RackNumberUnits : 1
- Model:モデル名称(例:PRIMERGY CX250 S2)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号

- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate : 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application:(任意項目)BMCのWeb GUIのURLを入力
- 3. 吸気温度を追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1で [FacilityName] に入力したサーバノード名を指定
- Sensor:吸気温度(51)
- 4. 消費電力を追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:消費電力(52)

5. 識別灯を追加します。

手順4で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor: 識別灯 (53)

6. 以降、同一シャーシ内のサーバノードを追加する場合は、手順2~5で作成した4行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックする作業を繰り返します。

このとき、複写で追加された行の以下の項目を修正します。 [FacilityName]、[NetAddress]、[Port/SlotNo]、[EquipmentDate] その他、[Model]、[System]、[S/N]、[ProductNo]、[Application] など、任意の項目に値を入力してい る場合、修正します。

7. マルチノードサーバを追加する場合は、手順1~6を繰り返します。

#### 【PRIMEQUEST 2000シリーズの場合】

1. シャーシを登録します。

- その他の項目は任意で指定します。
- FacilityName:シャーシ名称
- NetAddress : MMBのIPアドレス
- Type:機器種別(5)
- Sensor : 0
- Port/SlotNo : 0
- PollInterval : 60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通)
- Model:モデル名称(例:PRIMEQUEST 2800E)

- System: (任意項目)システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) MMBのWeb GUIのURLを入力
- 2. シャーシ消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1の [FacilityName] に入力したシャーシ名称を指定
- Sensor: 消費電力 (55)

#### • ストレージの登録

ストレージの情報は以下の手順で登録します。

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName : ストレージ名称
  - NetAddress : IPアドレス
  - Type:機器種別(18)
  - Sensor : 51
  - Port/SlotNo : 0
  - PollInterval : 60
  - Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
  - RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
  - RackAreaNo: RackのU位置を指定(1~50)
  - RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
  - VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通 or 0=他社)
  - Model:モデル名称(例:ETERNUS DX100 S3)
  - System: (任意項目)システム名称
  - S/N: (任意項目)出荷番号
  - ProductNo: (任意項目)型名
  - EquipmentDate : 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
  - Application : (任意項目)ストレージのWeb GUIのURLを入力
- 2. 消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1の [FacilityName] に入力したストレージ名を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 3. ストレージを追加する場合は、手順1~2を繰り返します。
- 手順1~2で追加したストレージがドライブエンクロージャーを搭載している場合は、以下の設定を 行います。

[挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

- FacilityName:ストレージ名称(複写元ストレージ名に関連する名称が望ましい)
- ParentName : 手順1の [FacilityName] に入力したストレージ名を指定
- Type:機器種別(18)
- Sensor : 0
- Port/SlotNo : 0
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo: RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits : 使用するU数を指定(1~50)
- EquipmentDate : 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力

ドライブエンクロージャーを追加する場合は、手順4を繰り返します。

コンバージドファブリックスイッチ/コンバージドファブリックスイッチブレードの登録

コンバージドファブリックスイッチとブレードシャーシに搭載されるコンバージドファブリックスイッチ ブレードの情報は以下のように登録します。

【コンバージドファブリックスイッチの場合】

1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:コンバージドファブリックスイッチ名称
- ParentName:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は空 白、それ以外の場合はRootドメインのMasterとなるコンバージドファブリックスイッチ [FacilityName]を指定(Rootドメインに所属するスイッチのうち、SwitchIDが小さい方をMasterと する)
- NetAddress:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は ファブリック代表仮想IPアドレス、それ以外の場合は空白を指定
- Type: 機器種別(20)
- Sensor: 吸気温度(51)
- Port/SlotNo: 0
- PollInterval : 60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo: RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits 使用するU数を指定(1~50)
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通)
- Model:モデル名称(例.CFX2000R)
- System: (任意項目)システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo : (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) コンバージドファブリックスイッチのWeb GUIのURLを入力
- 2. 消費電力を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName:手順1の [FacilityName] に入力したコンバージドファブリックスイッチ名を指定
- Sensor:消費電力(55)
- 3. SwitchIDを追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName: 手順1の [FacilityName] に入力したコンバージドファブリックスイッチ名を指定
- Sensor : SwitchID (57)
- 4. コンバージドファブリックスイッチを追加する場合は、手順1~3を繰り返します。

【コンバージドファブリックスイッチブレードの場合】

1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName:コンバージドファブリックスイッチブレード名称
- ParentName:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は搭載されるブレードシャーシの [FacilityName]、それ以外の場合はRootドメインのMasterとなるコンバージドファブリックスイッチまたはコンバージドファブリックスイッチブレードの [FacilityName]を指定(Rootドメインに所属するスイッチのうち、SwitchIDが小さい方をMasterとする)
- NetAddress:自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は ファブリック代表仮想IPアドレス、それ以外の場合は空白を指定
- Type:機器種別(21)
- Sensor:消費電力(55)
- Port/SlotNo: ブレードシャーシの背面のスロット番号を指定(50=背面1段目左側、51=背面1段目 右側、52=背面2段目左側、53=背面2段目右側)
- PollInterval : 60
- RackNo: ブレードシャーシが搭載されているRack番号を指定(1~20)
- RackNumberUnits : 1
- VendorID: ベンダー番号を指定(1=富士通)
- Model: (任意項目) モデル名称
- System : (任意項目)システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate : 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application : (任意項目)コンバージドファブリックスイッチブレードのWeb GUIのURLを入力
- 2. SwitchIDを追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1の [FacilityName] に入力したコンバージドファブリックスイッチ/コンバージ ドファブリックスイッチブレード名を指定
- Sensor : SwitchID (57)

- 3. コンバージドファブリックスイッチブレードを追加する場合は、手順1~2を繰り返します。
- スイッチの登録

スイッチの情報は、以下の手順で登録します。

1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName : スイッチ名称
- NetAddress : IPアドレス
- Type: 機器種別(15=富士通スイッチ or 17=CISCOスイッチ or 19=FCスイッチ)
- Sensor :
  - Type=15の場合、吸気温度(51)を指定、
  - Type=17/19の場合、筐体温度(54)を指定
- Port/SlotNo : 0
- PollInterval : 60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~8)
- RackAreaNo:RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID:ベンダー番号を指定(1=富士通スイッチ/FCスイッチ or 9=CISCOスイッチ)
- Model:モデル名称(例:SR-X324T2)
- System: (任意項目)システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application : (任意項目) スイッチのWeb GUIのURLを入力
- 2. 消費電力を追加します。

Type=15の場合のみ、手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、 複写で追加された行の以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1の [FacilityName] に入力したスイッチ名を指定
- Sensor: 消費電力(55)
- 3. スイッチを追加する場合は、手順1~2を繰り返します。

#### UPSの登録

UPSの情報は、以下の手順で登録します。 Sensor情報はご使用になる機器により存在しない可能性があるため、機器の仕様を確認してください。

- 1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。
  - その他の項目は任意で指定します。
  - FacilityName : UPS名称
  - NetAddress : IPアドレス
  - Type:機器種別(31)
  - Sensor:入力電圧(20)
  - Port/SlotNo : 0

- PollInterval : 60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例: public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo: RackのU位置を指定(1~50)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(1~50)
- VendorID:ベンダー番号を指定(2=富士電機 or 5=APC)
- Model:モデル名称(例:SMT 1500RMJ)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N:(任意項目)出荷番号
- ProductNo: (任意項目)型名
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application : (任意項目) UPSのWeb GUIのURLを入力
- 2. 入力周波数を追加します。

手順1で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- FacilityName : 「-」(ハイフンを入力)
- ParentName : 手順1の [FacilityName] に入力したUPS名を指定
- Sensor : 入力周波数(21)
- 3. 出力負荷率を追加します。

手順2で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:出力負荷率(22)
- 4. 出力周波数を追加します。

手順3で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:出力周波数(23)
- 5. バッテリ電圧を追加します。

手順4で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor: バッテリ電圧 (24)

6. バッテリ(周辺)温度を追加します。

手順5で追加した行の [FacilityName] を選択して[複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor: バッテリ (周辺) 温度 (25)

7. バッテリ残充電容量を追加します。

手順6で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。

- Sensor:バッテリ残充電容量(26)

8. バックアップ可能時間を追加します。

手順7で追加した行の [FacilityName] を選択して [複写] ボタンをクリックし、複写で追加された行の 以下の項目を入力します。 - Sensor: バックアップ可能時間(27)

- 9. UPSを追加する場合は、手順1~8を繰り返します。
- PDU (インテリジェントタイプ) の登録

PDUの情報は、以下の手順で登録します。 Sensor情報はご使用になる機器により存在しない可能性があるため、機器の仕様を確認してください。

1. [挿入] ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

その他の項目は任意で指定します。

- FacilityName : PDU名称
- NetAddress : IPアドレス
- Type: 機器種別(30)
- Sensor:消費電力(4)
- Port/SlotNo : 0
- PollInterval : 60
- Community: SNMPで通信するためのコミュニティ名(例. public)
- RackNo:搭載するRack番号を指定(1~20)
- RackAreaNo: RackのU位置を指定(ラックマウントタイプ:1~50、0UタイプはRackの左上 =51、右上=52、左下=53、右下=54)
- RackNumberUnits:使用するU数を指定(ラックマウントタイプ:1~2、0Uタイプ:0)
- VendorID: ベンダー番号を指定(6=APC)
- Model:モデル名称(例:Switched Rack PDU)
- System: (任意項目) システム名称
- S/N: (任意項目)出荷番号
- ProductNo:型名(例:AP8941)
- EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Application: (任意項目) PDUのWeb GUIのURLを入力
- 2. PDUを追加する場合は、手順1を繰り返します。

### 3.1.3 登録データの出力

構成情報の編集後、ISMおよびSVOMに登録するためのファイルを出力します。 ファイル名は、初期状態では以下のとおりです。出力時に変更できます。

- ISM用(ISM構成情報): facility\_list.csv
- SVOM用(サーバリスト) : server\_list.csv

以下に、登録データの出力方法について説明します。

1. [ISM構成情報 保存] ボタンをクリックします。

<u>ServerView Infrastructure  </u> 構成情報テンプレート	Manager		
ISM構成情報 読み込み	ISM構成情報 保存	必須	センター情報編集
挿入 複調	こ	任意	ラック情報編集

2. [ISM構成情報の保存先]ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指

定し、 [保存] ボタンをクリックします。

- 3. [サーバリストの保存先] ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存] ボタンをクリックします。
- 4. 出力されたファイルを確認します。
- 5. 出力されたファイルを使用して、SVOMとISMにデータを登録します。

手順については「3.2 SVOMへのデータ登録」、「3.3 ISMへのデータ登録」を参照してください。

## 3.2 SVOMへのデータ登録

登録データ作成ツールで出力したSVOM用登録データ(server\_list.csv)を、SVOMの[サーバリスト] 画 面からインポートします。

SVOM用登録データ(server\_list.csv)を使用して、PRIMERGY BXシリーズ、ETERNUS DXシリーズ、 コンバージドファブリックスイッチなどの各情報をSVOMへ登録します。

サーバブレードおよびPRIMERGY RXシリーズの情報はプロファイル管理機能を使用してSVOMへの登録が行われます。

[サーバリスト] 画面の詳細は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を 参照してください。

- 1. SVOMを起動し、[サーバリスト] 画面を表示します。
- 2. メニューから [サーバをインポート] を選択します。
- 3. [サーバをインポート] 画面で、[参照] ボタンをクリックして「server\_list.csv」を選択します。
- 4. [インポート] ボタンをクリックします。

登録処理が実行され、処理が完了すると結果が画面に表示されます。 問題の有無を確認します。

## 3.3 ISMへのデータ登録

登録データ作成ツールで出力したISM登録データ(facility\_list.csv)を、ISMの [Facility Browser] 画面から インポートします。[Facility Browser] 画面については、「5.2 [Facility Browser] 画面」を参照してください。

- 1. ISMを起動し、[Facility Browser] 画面を表示します。
- 2. [ファイルを開く]ボタンをクリックし、「facility\_list.csv」を選択します。
- 3. [整合性確認] ボタンをクリックします。

選択したファイルに対して、以下の項目の重複確認などが実行されます。

- NetAddress (IPアドレス)
- FacilityName
- ラック搭載位置(U番号)
- ブレードサーバ(BX)はスロット番号、マルチノードサーバはノード番号 異常が検出されるとメッセージが表示されます。

整合性が確認されると [登録] ボタンが使用できるようになります。

🚹 注意

異常が表示された場合は、内容に従って登録データ作成ツールのデータを修正する必要があります。 修正後、登録データを出力し直してから、再度登録してください。

4. [登録] ボタンをクリックします。

① 情報

各機器に設定された情報に応じて、ISMでの設定が必要な項目があります。

ISMでは各機器の情報を取得する際に、初期状態ではユーザ名/パスワードに「admin」/
 「admin」を使用しています。各機器のユーザ名/パスワードが初期値から変更されている場合は、
 ISMでも機器ごとにユーザ名/パスワードを変更する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、機器プロパティの[プロパティ]タブ - [アカウント] と[パスワード] を設定してください。

 CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeから情報を取得するためには、各機器のMACアドレ スをISMに設定する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、CFX2000RおよびConvergedFabricSwitchBladeについて、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [MACアドレス] を設定してください。

- FirstSightを使用する場合、以下の情報が設定されている必要があります。
  - PRIMERGY BXシリーズ(シャーシ)の場合 機器プロパティの [プロパティ] タブ - [モデル名]、管理ネットワークの [IPアドレス]、[アカウント]、 [パスワード]、 [コミュニティ名]
  - 上記以外の場合 機器プロパティの[プロパティ]タブ - [モデル名]、[IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コ ミュニティ名]、および、[管理OS]タブ - [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]

機器プロパティは、[Facility Manager] 画面の [一覧] タブで表示される [ラック] 画面で設定します。詳し くは、「5.1.2 [一覧] タブ - [ラック] 画面 - 機器プロパティ項目」を参照してください。

## 3.4 Profile Managerによる機器登録

Profile Managerによる機器登録の手順については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル(プロファイル管理機能編)』(C122-0003)を参照してください。

## 3.5 アラームルールの設定

[Facility Manager] 画面で監視対象機器の異常/警告状態を表示させるため、アラームルールを設定します。

- 1. SVOMを起動し、メニューから [イベント] [アラーム設定] を選択します。
- 2. [アラームルールの管理] 画面で [追加] ボタンをクリックします。
- 3. 表示されるダイアログボックスで、[アラームルール名] に「setstatus」と入力し、[OK] ボタンをク

リックします。

- 4. [アラームルールの管理] 画面に戻ったら、[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [サーバの割り当て] 画面が表示されたら、[すべてのサーバ] を選択して [>] ボタンをクリックします。
- 6. [選択されたサーバ] ダイアログボックスに [すべてのサーバ] が表示されることを確認し、[適用] ボタン、[次へ] ボタンを順にクリックします。
- 7. [アラーム割り当て]-[個別のアラーム]画面が表示されたら、次の操作をします。
  - a. 表示されたアラーム一覧の上で右クリックし、表示されるメニューで [リスト上のすべてのアラー ムにチェックを入れる] をクリックします。
  - b. [適用] ボタン、[次へ] ボタンを順にクリックします。
- 8. [アラーム割り当て]-[アラームのタイプ] 画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。
- 9. [アクションの割り当て] 画面が表示されたら、次の操作をします。

a. [追加] ボタンをクリックします。

- b. 表示される画面で [プログラム実行] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
- c. 次に表示される画面で、以下を入力または選択し、[適用] ボタン、[OK] ボタンを順にクリックします。

[アクション名]:setstatus

[コマンド]:svfm\_setstatus.bat "\$\_IPA" "\$\_SEV" "\$\_MIB"

[作業フォルダ]:C:¥Program Files(x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager [スケジュール]:常に実行

- 10. [アクションの割り当て] 画面に戻ったら、[定義されたアクション] ダイアログボックスに 「setstatus」が表示されていることを確認し、[適用] ボタンをクリックします。
- 11. [アラームルールの管理]画面を選択し、作成したアラームルール「setstatus」の [有効] チェックボッ クスがオンになっていることを確認します。

オンになっていない場合は、チェックボックスをオンにして [適用] ボタンをクリックします。

# 第4章 ログ収集機能の設定

この章では、ISMのログ収集機能を導入後の設定について説明します。 監視対象と提供する機能、収集するログは以下のとおりです。

#### ログ収集機能の監視対象と収集するログ

		収集箇所		機能	収集するログ		必要な設定	収集タイミ ング
<i>\\</i>	— F	゙ウェア						
	PF	IMERGY (BXシ	/リーズ)	—	—		_	定期収集
		ММВ		ログ収集	SSL	4.1	ログ収集対象の設定(*2	) (1回/日)
		コンバージドフ	ァイブ	ログ収集	ログ(ログはCFX	4.1	ログ収集対象の設定	
		リックスイッチ	ブレード		に含まれる)			
		サーバーブ	VMware	ログ収集	ESXi上のsyslog	4.1	ログ収集対象の設定	
		レード		ログ監視		4.2	ログ転送の設定	
				異常通報		4.3	異常通報の設定	
			Windows	ログ収集	イベントログ	4.1	ログ収集対象の設定	
						4.2	ログ転送の設定	
	PF	IMERGY (RX	VMware	ログ収集	ESXi上のsyslog	4.1	ログ収集対象の設定	
	シ	リーズ) (*1)		ログ監視(*2)		4.2	ログ転送の設定	
				異常通報		4.3	異常通報の設定	
			Windows	ログ収集	イベントログ	4.1	ログ収集対象の設定	
						4.2	ログ転送の設定	
	LA	N集約スイッチ	(CFXシ	ログ収集	show tech-support	4.1	ログ収集対象の設定	
	IJ.	ーズ、SR-Xシリ	ーズ)		の結果			
	ス	トレージ (ETE	RNUSシ	ログ収集	esfsnapの結果	4.1	ログ収集対象の設定(*3	)
	IJ.	ーズ)				4.4	FTPサーバの設定	

	Ц	又集箇所	機能	収集するログ	必要な設定	収集タイミ ング
y	フトウェア	,				
	ISMがイ	ServerView Agent	ログ収集	Primecollectの結果	4.3 異常通報の設定	異常発生時
	ンストー		ログ監視			
	ルされて		異常通報			
	いるOS	ServerView Fabric	ログ収集	ログ収集コマンド		
		Manager	ログ監視	(svfabcli log		
			異常通報	collectの結果)		
		ServerView	ログ収集	ログファイル		
		Infrastructure	ログ監視			
		Manager	異常通報			
		ServerView	ログ収集	cmscollectの結果		
		Operation Manager	ログ監視			
			異常通報			

#### ログ収集機能の監視対象と収集するログ(続き)

\*1: PRIMERGY RXシリーズのSEL情報は取得できない。

\*2: PRIMERGY BXシリーズのMMBからSEL情報を取得するために、対象の各MMBにtelnet (port:3172) を有効 にする必要がある。

\*3: ETERNUSのログを収集するために、対象の各ETERNUSにtelnet (port:23) を有効にする必要がある。

#### ■ ログ収集

各ハード機器のログを定期的(1日1回)に収集する機能です。 収集したログは、アーカイブ後にISMの[ログ収集]画面で機器ごとにダウンロードできます。 ログは最大7日分保存されます。

ServerView Agentなどソフトウェアの保守情報は各ソフトウェアの異常発生時に収集され、ログは約1時 間後、ISMの[ログ収集]画面の「Infra\_Manager」からダウンロードできます。 定期ログ収集とソフトウェアの異常が重なった場合、ソフトウェア異常時のログは取得できません。 その場合、イベントログにIDが「100」のメッセージが出力されます。 メッセージについて詳しくは「4.8 メッセージ一覧」を参照してください。

### ■ ログ監視

ホスト上OSのログに出力されるドライバのログ、および管理用サーバ上のソフトウェアのソフト異常を 監視して、ログ情報の収集や異常通報を実行する機能です。 ログ監視対象は以下のとおりです。

- ソフトウェア

ServerView Operations Manager for Windows、ServerView Infrastructure Manager、ServerView Fabric Manager

管理サーバ上のソフトウェア異常の場合には、異常発生ごとにログが収集されます。

- ハードウェア

LAN、FCカードなどドライバのログ

検出した異常はイベントログにメッセージとして出力されます。 メッセージの内容と対処方法については「4.8 メッセージー覧」を参照してください。

#### ■ 異常通報

SVOMのイベントマネージャーの [アクション設定] を利用してTrapやMail通報を行う機能です。別途、異常通報の設定が必要です。詳しくは「4.3 異常通報の設定」を参照してください。

#### 🦺 注意

同一のIPアドレスで重複した異常が発生した場合、1時間抑止され通報およびログ収集はされません。

## 4.1 ログ収集対象の設定

「5.3 [ログ収集] 画面」で監視対象の機器を設定します。
 登録後、設定反映のためにISMのログ収集機能の再起動が必要です。
 OSの管理ツールの [サービス] から [ServerView LogCollect and Checker] を選択し、再起動します。

## 4.2 ログ転送の設定

ホストOSのログを集約、監視するために必要な設定について説明します。 設定はホストOSによって異なります。

### 4.2.1 VMware ESXiの場合の設定

ホストOSがVMware ESXiの場合の設定内容を説明します。 設定にはVMware vSphere Client(以降vClientと表記)を使用します。 管理用サーバ上のvClientを使用するか、お客さまでクライアント端末を準備してください。 クライアント端末には、vClientのインストールが必要です。インターネット経由でVMware社のサイトよ りダウンロードし、インストールしてください。

#### ■ ログ転送の設定

- 1. vClientを起動します。
- 2. [構成] タブをクリックし、ソフトウェアの項目の [詳細設定] をクリックします。

10.24.76.104 ~ vSphere C ファイル(F) 編集(F) 表示(W)	Client インベンドリ(N) 範環(A) ブラダイン(P) ヘル	7 (H)						_03
🖸 🖸 🔄 🛧 - 6 🛛								
5 6								
10.24.76.104	VMwareSESXiJocalhost.localdoma はしか(こ サマリ 夜想マシン リソ	in VMware ESX -ス割り当て した	i, 5.0.0, 44) オーマンス	1354   評価 (3気) 精成 、 コーカル 3	)57日) レーザーおよびグループ、イベン			
	ハードウェア		- (					
	健全性ステージス フロセッサ メモリ ストレージ ネッシワーシ ストレージ アダプタ ネッシワーシ アダプタ 詳細語収 電力振行理							
	ソフトウェア							
	ライセンス構成 時間の時候 いちおよびルーラング (2014)							
最近のタスク					名前、ターク	ット または ステータス に	次の内容を含む: -	クリア
名前	ターゲット	ステータス	18羊約日	開始者	要求された開始時刻 マ	開始時刻	完了時刻	-
<ul> <li>() 仮想マシンのパワーオン</li> <li>() 仮想マシンの再構成</li> <li>() 仮想マシンの再構成</li> </ul>	(道) RH62_x64GA () RH62_x64GA () RH62_x64GA	<ul> <li>◎ 元了</li> <li>◎ 元了</li> <li>③ 別の揀作に</li> </ul>		root root	2012/05/12 1:13:54 2012/05/12 1:13:43 2012/05/12 1:12:55	2012/05/12 1:13:54 2012/05/12 1:13:43 2012/05/12 1:12:55	2012/05/12 1:13:56 2012/05/12 1:13:44 2012/05/12 1:12:55	ļ
57 922							評価モード	: 列引 57 日 root

3. [syslog] 配下の [global] を選択し、[Syslog.global.logHost] に転送先(管理用サーバ)のIPアドレスを 入力して [OK] ボタンをクリックします。

Annotations	Syslog.globa	al.defaultRotate				8
CBRC	保持するロ・	ーテーションされる ロ	グのデフォルト数。ゼロ	]でデフォルト(こ!	」 リセットされます。	
COW	最小:	0	最大:	100		
DataMover	Syslog.globa	al.defaultSize				102
Digest DirentryCache	ローテーション	ン前のログのデフォル	ト サイズ (KB 単位)	。ゼロでデフォル	トにリセットされます。	
Disk FSS	最小:	0	最大:	10240		
FT	Syslog.globa	al.logDir			/scratch/log	
Irq LPage Mem	ログの出力を	もとなるディレクトリ(	Dデータストア パス。 №	IULL でデフォル	トにリセットされます。例:[datasto	oreNam
Misc	Syslog.globa	al.logDirUnique				
Net NFS Numa PageRetire	ホスト名に表	とづき、logdirの固れ	軍のサブディレクトリに	ログを配置しま	<b>đ</b> .	
Power	Syslog.globa	al.logHost			192.168.1.20	-
ScratchConfig Scsi SvMotion	ログの出力分	モリモート ホスト。N	ロエ でデフォルトにりも	2ットされます。	実数のホストがサポートされており.	. <del>.</del> .
global ioggers User User						

### ■ ログ転送用のファイアーウォール設定

- 1. vClientを起動します。
- [構成] タブをクリックし、ソフトウェアの項目の [セキュリティプロファイル] をクリックします。
   サービスとファイアーウォールの情報が表示されたら、ファイアーウォールの [プロパティ] をクリックします。

はじめに、サマリ、仮想マシン、リソース	割り当て、パフォーマンス構成	コーカル ユーザーおよびグループ 🔪 イベン	ト 権限		
ハードウェア	セキュリティ プロファイル				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
健全性ステータス プロセッサ メモリ ストレージ ネットワーク ストレージ アダプタ ネットワーク アダプタ 詳細設定 電力等理	サービス 10 リダイレクタ(Active Direr ネットワーク ワガン サーバ( 10 U ローク ワガン サーバ( 10 U ローク ロガン サーバ( 10 U ローク ログン サービー 10 U ローク ログン サービー 10 U ローク ログン サーバ( 10 U ローク ログン サーバ)( 10 U ローク ローク ログン サーバ ローク ログン サービー 10 U ローク ログン ログン ログ	tony サービス) Active Directory サービス) ーバ (Active Directory サービス)		更新	70/( <del>)</del> 7
HEAT IN THE REAL PROPERTY INTERNAL PROPERTY	ファイアウォール			更新	70/374
У <b>フ</b> トウェア	受信接続				
ライセンス機能 時間の構成 DNS およびルーティング 認証サービス 仮想マンンに取ら/マットダウン 仮想マンンスワッナファイルの場所 セキュリティブロファイル 水入トキャウシロの構成 システム, リン-2期的当て	DHCP クライアント vSphere Client NFC フォールトトレランス vMotion CIM SLP SNMP サーバ DNS クライアント vSphere Web Access 発信接続	68 (UDP) 902, 443 (TCP) 902 (TCP) 8100, 8200 (TCP, UDP) 8000 (TCP) 427 (UDP, TCP) 161 (UDP) 53 (UDP) 80 (TCP)	すべて すべてて すべててててて すべててててて すべてて		
エージェント仮想マシンの設定	HBR DHCP クライアント	31031、44046 (TCP) 68 (UDP)	すべて すべて		
詳細設定	NFC	902 (TCP)	すべて		
	syslon	514. 1514 (UDP. TCP)	ৰ'গ্ৰ'		<b>_</b>

[ファイアウォールのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [ラベル] で [syslog] チェックボックスをオンにして [OK] ボタンをクリックします。

モート アクヤス					
コムリトアイナ リエート カライフ	かんけつのまった	わせービフ(-マカセフ)	ためまい トルード日 しまわ ロー	もり わちく アンより	tur_k
ストのサービスにアクセスでき	ないように阻止さ	れています。	C CARGE AND CHILD	576 2217 210	x/L
ービスまたはクライアントにアク	セス権を提供す	るには、チェックボック	スを選択します。デーモンは、	ボートを開くと自ら	勧約に開
され、すべてのボートを閉じる	5力感覚定すると1季	止します。			
		3 == #L	u++-L	701-70	
		2100 0200	B0 0100 0200		ジーモノ ・
フォールト トレラノス		8100, 8200	80, 8100, 8200	TCP, UDP	該当なし
DVFilter		2222	002	TCP	該当なし
NFC ON INTERNET		902	902	TCP	(2) (1) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2
UM 1241/ 9-/1		2494	24224 44245	TCP	天打甲
HBR			31031, 44046	ICP	該当なし _
			9	UDP	該当なし
sysiog		0001 0000	514, 1514	UDP, TCP	該当なし
DVSSync		8301, 8302	8302, 8301	UDP	該当なし
		5988		TCP	美行甲
97501/ ISCSI 071	PDF		3260	TCP	※当なし
					•
サービスのプロパティーーー					
全般					
サービス:	SSH サーバ				
パッケージ情報:	esx-base				
	This VIB con	tains all of the base	functionality of vSphere E	SXI.	
ファイアウォール設定					
許可された IP アドレス:	すべて			□ ーカル クライアンドはリモート .(は、ボートを閉火と自動的な)開 プロトコル デーモン TCR、UDP 接当なし TCP 接当なし TCP 接当なし UDP 接当なし UDP 接当なし UDP 接当なし UDP 接当なし UDP 接当なし TCP 接当なし UDP 接当なし TCP 接当なし UDP (接当なし) TCP (接当なし) UDP (接当なし) TCP (E) (E) TCP (E) (E) TCP (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E)	
			7 /7	<u>[</u>	
			771 /*	Ja-1	17997

4. ファイアーウォールの [発信接続] に [syslog] の行が存在することを確認します。

ネットシーシアシンシュ	SSH ダイレクト コンソール UI		
電力管理	CIM サーバ		
ערקארט	ファイアウォール		
201.010	受信接続		
ライセンス機能	SNMPサーバ	161 (UDP)	すべて
時間の構成	vSphere Client	902、443 (TCP)	すべて
DNS およびしーティング	SSH サーバ	22 (TCP)	すべて
ENET# 123	DHCP クライアント	68 (UDP)	すべて
認識正り一とス	フォールト トレランス	8100, 8200 (TCP, UDP)	すべて
仮想マシン起動/シャットダウン	DNSクライアント	53 (UDP)	すべて
仮想マシンスワップファイルの場所	NFC	902 (TCP)	すべて
・ セキュリティブロファイル	CIM SLP	427 (UDP, TCP)	すべて
ホフトをおいいっの構成	vMotion	8000 (TCP)	すべて
2.7.7.1.1.1.7.7.2.101400A	vSphere Web Access	80 (TCP)	すべて
システムリジース書い目し	発信接続		
エージェント仮想マシンの設定	WOL	9 (UDP)	すべて
詳細設定	NTP クライアント	123 (UDP)	すべて
	DHCP クライアント	68 (UDP)	すべて
	SSH クライアント	22 (TCP)	すべて
	フォールト トレランス	80, 8100, 8200 (TCP, UDP)	すべて
	DNEDSCRYL	53 (UDP)	すべて
	syslog	514, 1514 (UDP, TCP)	すべて
	NEC	902 (TCP)	すべて
	ソフトウェア iSCSI クライアント	3260 (TCP)	すべて
	vMotion	8000 (TCP)	すべて
	CIM SLP	427 (UDP, TCP)	すべて
	httpClient	80, 443 (TCP)	すべて
	vCenter Update Manager	80、9000-9100 (TCP)	すべて
	HBR	31031、44046 (TCP)	すべて

### ■ ログ受信側の設定

ホストのログを管理用サーバ上で受信するために、VMware社の仮想化監視ソフトウェア VMware vCenter Server(以降vCenterと表記)のインストーラに含まれるSyslog Collectorを利用しています。以下にその設定方法を説明します。

- 1. 管理用サーバ上で、vCenterのインストーラを展開し、インストーラを実行します。
- 2. [VMware vCenterインストーラ] 画面で [VMware Syslog Collector] を選択します。

ø	VMware vCenter インストーラ				
	vmware vSphere 5.1				
	vCenter Serverをインストールするために必要な情報は、次を参照してください。 <u>http://www.vmware.com/installation</u>				
	VMware® 없음 VMware® vCenter <sup>™</sup> Simple Install vCenter <sup>™</sup> Single Sign On VMware® vCenter <sup>™</sup> Inventory Service VMware vCenter <sup>™</sup> Server VMware vSphere® Client VMware vSphere® Client	VMware vSphere® Syslog Collector Wware® vSphere® Syslog Collector は、システム、ログ記録に対する統 合アーキテジチャを提供します。ネットワークログの記録が可能になり、複 鉄のホストのログを結合できます。			
	VMware vSphere© Updale Manager™ vCenter サポート ツール Mware vSphere© ESXI™ Dump Collector VMware vSphere© Syslog Collector				
	VMware vSphere® Auto Deploy VMware vSphere® Authenšcation Proxy ユーディリティ VMware® vCenter™ Hoct Agent Pre-Upgrade Checker				
		インストール			

ターゲットフォルダのvSphere Syslog Collectorの構成を編集します。
 [リポジトリディレクトリ]の [変更] ボタンをクリックします。

閿	vSphere Syslog Collector
<b>ターゲ</b> 「次 て異	・ ケーフォルダ へ」をクリックしてこのフォルダにインストールするか、「変更」をクリックし はなるフォルダへインストールしてください。
	vSphere Syslog Collector のインストール先: C:¥Program Files (x86)¥V/Mware¥V/Mware Syslog Collector¥ 変更 (c)
vSpher	re Syslog Collector の構成 リボントリディレクトリ: C:¥ProgramData¥VMware¥VMware Syslog Collector¥Data¥ 変更 (H)
	ローテーション前のログ ファイルのサイズ (S): 2 MB 【保存するためのログのローテーション (L): 8
InstallShi	eld <戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

4. ターゲットフォルダのパスを確認後、以下のように設定し、 [OK] ボタンをクリックします。

パス:<ログの保存先のパス>work

〕情報

ログ保存先のパスは[環境変数]の[SVIcc\_LOGSPATH]で確認できます。

[SVIcc\_LOGPATH] の値が「C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVIcc¥Logs」の場合、以下のようになります。

パス:C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVlcc¥Logs¥work

例: ログ保存先のパスが「C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVIcc¥Logs」の場合

闄	vSphere Syslog Collector	x
珼	在のターゲット フォルダを変更	
	ターゲットフォルダを参照します。	
	検索 (L):	
	🗎 work. 🗸 🗸	<b>E</b>
	💷 フロッピー ディスク ドライブ (A:)	
	💷 ローカル ディスク(C:)	
	Program Files (x86)	
	🚞 Fujitsu	
	ServerView Suite	
	Plugins	
	SVIcc	
	Logs	
	i work	
	🛃 DVD ドライブ (D:)	
Insta	/ //Shield	
111200	ОК	キャンセル

5. ローテーション前のログサイズを以下のように設定し、[次へ] ボタンをクリックします。

[ローテーション前のログファイルのサイズ]: 2 MB [保存するためのログのローテーション]: 80
谩	vSphere Syslog Collector				
<b>ターゲ</b> 「次 て異	ターゲットフォルダ 「次へ」をクリックしてこのフォルダにインストールするか、「変更」をクリックし て異なるフォルダヘインストールしてください。				
	vSphere Syslog Collector のインストール先: C:\#Program Files (x86)\#V/Mware\VMware Syslog Collector\# 実更 (C)				
vSphere Syslog Collector の構成           リポジトリ ディレクトリ:           C:\Program Files (x86)\#Fujltsu\#ServerView           SubrePlugner\#VickUogs\#work\#           ローテーション前のログファイルのサイズ (5):           保存するためのログのローテーション (L):					
InstallShi	eld				

6. セットアップタイプで [スタンドアロンインストール]を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

谩	vSphere Syslog Collector	×
セットアップ ニーズにき	クタイプ 最も適したセットアップタイプを選択してください。	
• 742)	<b>ドアロン インストール (S)</b> vSphere Syslog Collector をこのマシンにインストールします。	
O YMwa	<b>re vCenter Server のインストール (⊻)</b> VMware vCenter Server の統合インストール。	
InstallShield –	〈戻る(8) (次へ(0) > キ	<b>ッ</b> ンセル

7. ポートの設定は初期値のままで、[次へ] ボタンをクリックします。

đ	vSphere Sysl	og Collect	or	×
<b>vSphere Syslog Collector</b> vSphere Syslog Collector <del>†</del>	<b>のボートの設定</b> ナーバのボートを指定し	します。		
vSphere Syslog Collector サー マTCP ブロ マUDP ブロ	バのボート(S): トコル (T) トコル (U)	514		
vSphere Syslog Collector サー マセキュアオ	バの SSL ポート( <u>P</u> ): 3 接続 (E) (SSL)	1514		
InstallShield	< 房	론る (B)	次へ (N) > [	キャンセル

 vSphere Syslog CollectorのIDは、インフラ管理VMの仮想マシンに割り当てたIPアドレスを設定し、[次 へ] ボタンをクリックします。

vSphere Syslog Collector のID vSphere Syslog Collector の識別や名を選択します。          vSphere Syslog Collector がネットワーク上でどのように識別されるのかを指定します。         10.24.76.135	
vSphere Syslog Collector がネットワーク上でどのように識別されるのかを指 定します。 10.24.76.135 v	
voluters 3/300 Collector /パー・タイン - シエ C C 103- スCaesがらく 1200/パイオョ 定します。 10.24.76.135 v	
10.24.76.135 v	
IstallShield	

9. [インストール]をクリックします。

インストールが完了します。

Syslog Collectorの詳細については、VMware社が公開しているvCenterのインストールガイドを参照してください。

# 4.2.2 Hyper-Vの場合

ホストOSがHyper-Vの場合の設定は以下のとおりです。

### ■ ログ受信側の設定

ホスト上のイベントログを、ISMで管理しているOSへ転送するための設定を行います。

- 1. ISMがインストールされている管理用サーバでWindows PowerShellコンソールを起動します。
- 2. PowerShellスクリプトの実行セキュリティ・ポリシーを変更します。

Set-Executionpolicy RemoteSigned

3. 実行ポリシーの変更を確認するメッセージが出力されたら、[Y] キーを押して、「はい」を指定します。

#### ■ ログ転送用のファイアーウォールの設定

監視対象の各サーバで、Windowsファイアーウォールを有効にして運用する場合は、ログ転送のために 以下のポートを開放します。

ネットワークトラフィックの名前	サーバポート
リモートイベントのログ管理(RPC)	TCPの動的ポート、EventLog(Windows イベントログサー
	ビス)
リモートイベントのログ管理	RPCのエンドポイントマッパー
(RPC-EPMAP)	

- 1. 監視対象の各サーバで [コントロールパネル] [システムとセキュリティ] [Windows ファイアウォー ル] を選択して表示される画面で、左側の [詳細設定] をクリックします。
- 2. [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] 画面左側の [受信の規則] をクリックします。
- 受信の規則が表示されたら、[リモートイベントのログ管理(RPC)]を選択し、右クリックして表示されるメニューで[規則の有効化]をクリックします。
- 4. [リモートイベントのログ管理(RPC-EPMAP)]を選択し、右クリックして表示されるメニューで [規則

の有効化] をクリックします。

設定が完了すると、[リモートイベントのログ管理(RPC)]、[リモートイベントのログ管理 (RPC-EPMAP)]の左端のチェックボックスがオンになり、緑色で表示されます。

# 4.3 異常通報の設定

異常通報先の設定手順を説明します。

SVOMのイベントマネージャーの [アラーム設定] 画面で、通報先とアクション(Trap、Mailなど)を設定 することで、ログ収集機能が検出した異常を通知できます。

ここでは、ServerView Event ManagerのTrapとMail通知の設定について説明します。設定内容について詳しくは、ServerView Event Managerのマニュアルを参照してください。

### ■ SVOMの設定

- 1. 管理用サーバにてSVOMを起動し、メニューから [イベント管理] [アラーム設定]を選択します。
- 2. [サーバーの割り当て]には、ISMがインストールされている管理サーバを設定します。
- 3. [アラームの割り当て]では、以下のルールを選択します。
  - Driver Monitoring error event
  - Driver Monitoring information event
  - Driver Monitoring warning event
- 4. [アクションの割り当て]の[追加]ボタンをクリックし、メールとアラーム転送(Trap)をそれぞれ作成します。

① 情報

Trapを設定する場合、[アラーム転送設定] タブの [転送モード] で [パススルー] と [透過] のチェック ボックスをオンにします。

- 5. 必要に応じて[フィルタルール/共通の設定]を設定します。
- 6. [アラームルール] 画面で、作成したアラームルールの [有効] チェックボックスがオンになっていることと、その設定内容を確認します。

### ■ SNMPサービスの設定

ログ収集機能を使用するには、SNMPサービスの設定が必要です。 管理用サーバと通報先のサーバについてトラップの設定を行います。 SNMPサービスのインストールについては、SVOMのインストールガイドを参照してください。

- 1. OSの管理ツールの [サービス] から [SNMP Service] を右クリックして表示されるメニューで [プロパ ティ] をクリックします。
- [プロパティ] 画面が表示されたら、[トラップ] タブをクリックし、[コミュニティ名] に管理用サーバ と通報先のサーバがトラップ受信可能な名称を設定し、[トラップ送信先] に管理用サーバのIPアドレ スと送信先サーバのIPアドレスを追加します。

	(ローカル コンピューター) SNMP Service のプロパティ	x
全般	ログオン 回復 エージェント トラップ セキュリティ 依存関係	
SNM ク管: しな( ドレン	MP サービスは、TCP/IP プロトコルと IPX/SPX プロトコルを介したネットワー 理型を可能にします。トラップが必要な場合は、1 つ以上のコミュニティ名を指定 いけれ(はなりません。トラップの送信先は、ホスト名、IP アドレス、または IPX ア スのいずれいす。	
ב≲ב	エティ名(C): public - 町に追加れて	
<del>ر</del> ط	一覧から削除(R)	
	192.168.10.20	
	追加( <u>D</u> ) 編集( <u>E</u> ) 削除( <u>M</u> )	
SNMF	₽ の詳細を表示します	
	OK キャンセル 適用(A	)

- 3. [セキュリティ] タブをクリックし、手順2で設定したコミュニティ名を設定し、管理用サーバと送信 先サーバのSNMPパケットを受け付けるように、送信先のIPアドレスを追加します。
- 4. [適用] ボタンをクリックします。

# 4.4 FTPサーバの設定

ETERNUSが監視対象の場合は、FTPサーバの設定が必要です。 FTPサーバは、ISMがインストールされているOS上に設定します。 また、ETERNUSがFTPサーバーとは異なるネットワークに存在する場合、ルーターを設定するなど各ネッ トワークで通信可能な状態にしてください。

## 4.4.1 FTPサーバのインストール

- 1. Windowsのサーバーマネージャーを起動し、画面左側で [ローカルサーバー] を選択します。
- 2. 画面右上のメニューで[管理]-[役割と機能の追加]を選択します。
- 3. [開始する前に] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
- [インストールの種類の選択] 画面で [役割ベースまたは機能ベースのインストール] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [対象サーバーの選択] 画面で [サーバープールからサーバーを選択] を選択し、[サーバープール] から ISMのインストール先のサーバを選択します。
- 6. インストール先のサーバが正しいことを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。

- 7. [サーバーの役割の選択] 画面で、[Webサーバー(IIS)] チェックボックスをオンにします。
- 8. 「Webサーバー(IIS)に必要な機能を追加しますか?」という確認ダイアログボックスが表示された場合は、[機能の追加] ボタンをクリックします。
- 9. [次へ] ボタンをクリックします。
- 10. [機能の選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 11. [Web サーバーの役割(IIS)] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
- 12. [役割サービス選択] 画面で、[FTPサーバー] と [FTPサービス] のチェックボックスをオンにし、[次へ] ボタンをクリックします。
- 13. [インストールオプションの確認] 画面でインストールオプションを確認し、[インストール] ボタンを クリックします。

続けて、FTPサーバを追加します。

14. サーバーマネージャーの画面右上のメニューで [ツール] - [インターネット インフォメーション サー ビス(IIS) マネージャー] を選択します。

インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャーが起動します。

- 15. 画面左側で、<ISMがインストールされたOSのコンピュータ名>を選択します。
- 16. 以下のダイアログボックスが表示されたら、[いいえ] ボタンをクリックします。

インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー
最新の Web Platform コンポーネントとの接続を維持するため、Microsoft Web Platform の使用を開始しますか?
このメッセージを表示しません。
はい いいえ キャンセル

- 17. <ISMがインストールされたOSのコンピュータ名>を右クリックして表示されるメニューで [FTPサ イトの追加] をクリックします。
- 18. [サイト情報] 画面で、[FTPサイト名] と [コンテンツディレクトリ] を入力し、 [次へ] ボタンをクリックします。

	FTP サイトの追加	? ×
サイト情報		
FTP サイト名(F):	7	
コンテンツ ディレクトリ		
10年/八(H):		
	前に戻る(P) 次へ(N) 終了	(F) キャンセル

項目	設定値
FTPサイト名	任意の名前。
物理パス	C:¥inetpub¥ftproot

19. [バインドとSSLの設定] 画面で、 [FTPサイトを自動的に開始する] チェックボックスがオンになって いることを確認します。[SSL] は [無し] を選択し、 [次へ] ボタンをクリックします。

	FTP サイトの	追加		2
バインドと SSL の設定				
バインド IP アドレス(A): すべて未割り当て	ポート(0): マ 21			
● 仮想ホスト名を有効にする(E): 仮想ホスト (例: ftp.contoso.com)(H):				
☑ FTP サイトを自動的に開始する(T) SSL				
● 無U(L) ○ 許可(W)				
〇 必要(R) SSL 証明書(C):				
未選択		→ 選択(	5) 表示(\	0
	前に戻る(P)	次へ(N)	耗了(F)	キャンセル

項目	設定値
IPアドレス	すべて未割り当て

項目	設定値
ポート	21 (変更不可)
[仮想ホスト名を有効にする] チェック	オフ
ボックス	
[FTPサイトを自動的に開始する] チェッ	オン
クボックス	
SSL	無し

20. [認証および承認の情報] 画面で、[認証] は [基本] チェックボックスをオンにして、[アクセスの許可] でアクセスを許可するユーザーを指定します。[アクセス許可] は、[読み取り] と [書き込み] のチェッ クボックスをオンにして、[終了] ボタンをクリックします。

	FTP サイトの追加	? X
認証および承認の情報	R.	
認証 □ 居名(A) ▼ 基本(B) 承認 アクセスの許可(C): 指定されたユーザー Administrator アクセス許可 ▼ 読み取り(D) ▼ 書き込み(W)		
	前に戻る(P) 次へ(N)	終了(F) キャンセル

項目	設定値
[匿名] チェックボックス	オフ
[基本] チェックボックス	オン
アクセスの許可	指定されたユーザー、
	管理者権限のあるユーザ名
[読み取り] チェックボックス	オン
[書き込み] チェックボックス	オン

21. メニューで [ファイル]-[終了] を選択します。

インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャーが終了します。

## 4.4.2 FTPサーバ情報の登録

ログ収集機能に、次のFTPサーバ情報を登録します。

- FTPサーバのIPアドレス (\*1)

- FTPサーバへのログインID (\*2)
- FTPサーバへのログインパスワード(\*3)
- \*1: IPv4のみサポート。
- \*2: 「4.4.1 FTPサーバのインストール」の手順20で、アクセスを許可した管理者権限のあるユーザ名を 指定。
- \*3: 設定した情報は暗号化して保存。

FTPサーバ情報の登録には、コマンドラインツール「setftpinfo」を使用します。 setftpinfoの仕様は次のとおりです。

### ●入力形式

#<環境変数「SVIcc\_INSTALLPATH」>¥bin¥setftpinfo <オプション>

#### ●オプション

-i: 対話形式で、FTPサーバのIPアドレス、ログインID、パスワードを暗号化し、ファイルへ出力する。 -c: 設定した情報が正しいか確認する。

### ●終了ステータス

- 0: 正常終了
- 1: 異常終了

#### ●備考

- コマンドの実行には、WindowsのAdministrators権限が必要。Administrators権限以外で実行すると、
   終了ステータスが不定になる。
- ツールの実行後、ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動すると情報 が登録される。登録後にFTPサーバのIP、ID、パスワードを変更した場合、登録し直す必要がある。

### ●使用例

1. FTPサーバのIPアドレスとログイン情報を設定します。

# <環境変数「SVIcc\_INSTALLPATH」>¥bin¥setftpinfo - i Input FTP IPv4 address: 192.168.1.2 Input Login ID: Administrator Input Login PASSWORD: \*\*\*\*\*\*

情報を暗号化したファイルが、<環境変数「SVIcc\_INSTALLPATH」>¥local¥ftpinfoファイルに出力されます。

2. 設定した情報が正しいかチェックします。

# <環境変数「SVIcc\_INSTALLPATH」>¥bin¥setftpinfo -c

次のどちらかのメッセージが表示されます。

- 設定した情報が正しい場合 Successful execution of the command.
- 設定した情報が正しくない場合 Failed to execute the command

設定した情報が正しくない場合、FTPサーバの設定や、手順1で設定した内容を確認し、設定し直します。

3. ログ収集機能を再起動します。

OSの管理ツールの [サービス] から [ServerView LogCollect and Checker] を選択し、再起動します。 手順1で出力されたファイルを使用して、ログ収集機能にFTPサーバ情報が登録されます。

# 4.5 通知メッセージ

通知メッセージは、以下の形式で通報されます。

#### ■ メール

Driver Monitoring <エラーレベル>event at server <機器名>: (PID=0) <エラーレベル> <イベントID> < 故障箇所> <通報メッセージ> time\_of\_occurrence=<異常が発生した時刻> hostname=<コンピュータ 名/ホスト名>

### Trap

SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.1 = STRING: <機器名> SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.2 = INTEGER: <異常が発生した時刻(UTC)> SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.5 = STRING: (PID=0) <エラーレベル> <イベントID> <故障箇所> <通報メッセージ> time\_of\_occurrence=<異常が発生した時刻> hostname=<コンピュー タ名/ホスト名>

通知メッセージ(Trap)項目説明

項目	説明
機器名	異常が発生した機器名。
	Infra_Managerの場合は管理仮想マシンで発生した異常を示す。
エラーレベル	システムに対する影響度。
イベントID	異常の採番番号。
故障箇所	故障している箇所。
通報メッセージ	ログ収集が検知して出力する通知メッセージ。
time_of_occurrence	異常が発生した時刻。(*1)
hostname	コンピュータ名/ホスト名。

\*1: イベントログまたはESXiのログから先頭の日付・時刻だけ抜き出したもの。ダウンロードして きたPRIMERGY BXシリーズのサーバブレード、PRIMERGY RXシリーズのESXiのログや管理 用サーバ上のイベントログから実際に出力されたドライバ/ソフトウェアのログを参照する場 合、この時刻をキーに探す。

# 4.6 異常発生時の対処

ログ収集機能が通知する異常メッセージは、以下のようにハードウェア(サーバ上に搭載されているPCI カードなど)とISMがインストールされたOS上のソフトウェア(SVOM、ISMなど)に分けられます。



ハードウェアの異常とソフトウェアの異常の対処方法は、以下のとおりです。

### ■ ハードウェアの異常(ファイバーチャネルカード/コンバージドネットワークアダプ ター/内蔵LAN/SCSIデバイス)

ログ収集が通報した場合もServerView Agentsと同様の対処を行います。 故障箇所は、TrapまたはMail情報の[通知メッセージ]にあるバス情報(xxxxx:xx:xx.x) /デバイス名 (vmnicX、vmhbaなど)から特定します。

### ■ ISMがインストールされているOS上のソフトウェア異常

Trap/Mail情報の[故障箇所]に表示される内容が、異常が発生しているソフトウェアです。 必要に応じて、「5.3.2 [ログ収集]画面」の「Infra\_Manager」から各ソフトウェアのログを収集して対 処します。

# 4.7 収集したログ

ログ収集機能で収集したログは、機器ごとにアーカイブされ、[ログ収集] 画面からダウンロードできます。 ハードウェア機器(PRIMERGY BX系、RX系、ETERNUS系、スイッチ系)や、管理用サーバ上のソフ トウェアに異常が発生して詳細を確認する場合、[ログ収集] 画面から対象の機器のログをダウンロードし て確認します。

ダウンロード方法については、「5.3.2 [ログ収集]画面」を参照してください。 ダウンロードしたログは、以下のファイル名およびフォルダ構成で格納されています。

### ■ PRIMERGY BXシリーズのMMB

- ファイル名

<機器名>\_<MMBのIPアドレス>\_<収集した時刻(YYYYMMDDhhmm)>.zip

フォルダ構成

<num1>: シャーシ番号

	フォルダ名	I	説明
機器	名_MMBのIPア	ドレス	
repo	rt.txt		ログ収集機能の実行ログ
/CHASSIS# <num1>_ MMBのIPアドレス</num1>		um1>_ レス	
		/400	PRIMERGY BX400シリーズのSEL情報(*1)
		/900	PRIMERGY BX900シリーズのSEL情報(*1)

\*1: PRIMERGY BX400シリーズ、PRIMERGY BX900シリーズどちらのフォルダも生成される。必要なフォルダを参照する。

### ■ RIMERGY BXシリーズのサーバブレード、PRIMERGY RXシリーズ

- ファイル名

<機器名>\_<OSのIPアドレス>\_<収集した時刻(YYYYMMDDhhmm)>.zip

- フォルダ構成

フォルダ名	説明
機器名_OSのIPアドレス	
report.txt	ログ収集機能の実行ログ
/LOG	OSのログ
	- Windows: Eventlog(アプリケーション、システム)
	- VMware: ESXi上のsyslog

## ■ スイッチ/ストレージ(CFXシリーズ、SR-Xシリーズ/ETERNUSシリーズ)

- ファイル名

<機器名>\_<管理用のIPアドレス>\_<収集した時刻(YYYYMMDDhhmm)>.zip

- フォルダ構成

	フォルダ名	説明
機器	名_OSの管理IPアドレス	
repo	rt.txt	ログ収集機能の実行ログ
	/LOG	ログファイル
		- ETERNUS: esfsnapの結果
		- LANスイッチ(CFX,SR-X): show tech-supportの結果

### ■ ISMがインストールされているOSのログとソフトウェアの調査資料

- ファイル名

VM\_INFRMGR\_< 収集した時刻 (YYYYMMDDhhmm) >.zip

- フォルダ構成

フォ	トルダ名	説明
VM_INFR	MGR_	
YYYYMM	DDhhmm	
report.txt		ログ収集機能の実行ログ
/OS		イベントログ(アプリケーション、システム)
/SVA	GT (*1)	Primecollectの結果
/SVRM (*1) ログファイル (RAIDLog.xml、snapshot.xml)		
/SVOM (*1)		cmscollectの結果
/SVIS	SM (*1)	<svomのインストールパス>¥plugins¥svism¥Manager¥svfm_log配下</svomのインストールパス>
		<svomのインストールパス>¥plugins¥svism¥Manager¥log配下</svomのインストールパス>
		<svomのインストールパス>¥plugins¥svism ¥log配下</svomのインストールパス>
		C:¥Windows¥System32¥LogFiles¥*.log
/SVF	AB (*1)	svfabcli log collect -lの結果
/VMv	vare (*1)	空フォルダ

\*1: インストールされていない場合には空フォルダが生成される。

# 4.8 メッセージー覧

ログ収集機能によってイベントログに表示されるメッセージの一覧は以下のとおりです。

		メッセージ			
U		対処			
62	SVIcc	PM child process abnormal end [%1:%2](%3)			
		3のプロセスが異常終了しました。			
		「4.9 SVIcc調査資料収集コマンド」を参考にSVIccのログを採取してシステ			
		ム管理者に相談してください。			
100	SVLCC_CMD	Failed to collect maintenance data, because already collecting by previous event			
		に発生したイベントによる保守情報取得処理が実行中のため、本イベントに			
		よる保守情報取得に失敗しました。			
		各ソフトウェア製品のログを手動で取得してください。			
		各ソフトウェア製品のログについては、各製品のマニュアルを参照してください。			

		メッセージ	
ID	9-2	対処	
101	SVLCC_CMD	Failed the log collection. Machine=%1 IP=%2	
		%1:ログ収集に失敗した機器名	
		%2:ログ収集に失敗した機器のIP	
		%1の機器のログ収集に失敗しました。	
		異常が発生した機器の構成やログ収集機能設定を見直してください。	
226	SVIcc	Failed to read (<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>local/ftpinfo) FileNo=%1	
		lineNo=%2 line=%3	
		FTPサーバの情報が登録されていません。	
		「4.4.2 FTPサーバ情報の登録」を参照し、設定を見直してください。	
226	SVIcc	Failed to read (<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>tool¥config¥common¥	
		crb_connection_setup.ini) FileNo=%1 lineNo=%2 line=%3	
		ログ収集に必要な設定ファイルの読み込みに失敗しました。	
		登録機器の構成やログ収集機能の設定を見直してください。	
		それでも改善しない場合には、「4.9 SVlcc調査資料収集コマンド」を参考に	
		SVlccのログを採取してシステム管理者に相談してください。	
228 SVIcc		Failed to encrypt (<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>tool¥crb_encrypt.exe)	
		FileNo=%1 LineNo=%2 line=%3	
		ログ収集に必要な設定ファイルの暗号化に失敗しました。	
		「4.9 SVIcc調査資料収集コマンド」を参考にログを採取してシステム管理者	
		に相談してください。	
228	SVIcc	Failed to open (<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>tool¥config¥crb_snap¥	
		crb_snap.ini) FileNo=%1 LineNo=%2 line=%3	
		ログ収集に必要な設定ファイルの読み込みに失敗しました。	
		登録機器の構成やログ収集機能の設定を見直してください。	
		それでも改善しない場合には、4.9章を参考にログを採取してシステム管理者	
		に相談してください。	
228	SVIcc	Failed to delete (<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>local/ftpinfo) FileNo=%1	
		LineNo=%2 line=%3	
		ログ収集に使用している一時ファイルの削除に失敗しました。	
		以下のファイルを手動で削除してください。	
		<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>tool¥config¥common¥ crb_connection_	
		setup.ini	
269	SVIcc	Invalid file format. (<環境変数(SVIcc_INSTALLPATH)>tool¥config¥common¥	
		crb_model.ini).FileNo=%1 LineNo=%2	
		ログ収集に必要な設定ファイル (crb_model.ini)の設定に誤りがあります。	
		設定を見直してください。	

	N 7	メッセージ		
םו		対処		
11000~11099	SVIcc	「4.6 異常発生時の対処」を参照して対処してください。		
11700~11799				
12000~12499				
12500~12549				
12550~12599				
13000~13499				
32000~32999				

# 4.9 SVIcc調査資料収集コマンド

getosvlccコマンドは、SVlccの障害発生時の調査資料として、以下の情報を1つの圧縮ファイルにまとめて出力します。

- アプリケーションパッケージのインストール状況
- ファイル/モジュール一覧情報
- 設定ファイル
- 内部ログ
- トレースファイルなど

## ●入力形式

output\_filename には、圧縮した調査資料の出力先ファイルをフルパスで指定します。

# getosvlcc output\_filename

### ●オプション

なし。

### ●備考

コマンドの実行には、WindowsのAdministrators権限が必要。Administrators権限以外で実行すると、
 終了ステータスが不定になる。

# 第5章 ISMのユーザーインターフェース

この章では、ISMのファシリティ管理に使用する各画面の項目について説明します。 ISMの画面を表示する方法は以下のとおりです。

1. ブラウザを起動し、以下のURLを入力します。



		NIC
	FUJITSU Software ServerView Suite Central Authentication Service	
	サインオン	
	ロジイン ・ ServerWeekのサブラルルシのユーゲンドワフトドのヘルガス、こ正記述参照してださい。 ・ パスワードの毛服したは未取にパイースさんれるとさまで変更すな。 ・ サードの分解除を発行いる可能性があるため、ロデアワト後のアグセスボア時日よ、ロジイン値数が出まり。ナブラウザを計下することを拒絶します。	
11		

3. SVOMのスタートページで、[インフラ管理] をクリックします。



ISMの [Facility Manager] 画面が表示されます。



初期状態では [Facility Manager] 画面が表示されます。

画面上部の [Facility Manager] / [Facility Browser] / [Profile Manager] / [Setup] / [Maintenance] のリ ンクボタンをクリックすると画面が切り替わります。

ここでは、[Facility Manager] 画面、 [Facility Browser] をクリックして表示される [Facility Browser] 画面、[Setup] をクリックして表示される [ログ収集] 画面について説明します。

[Profile Manager] をクリックして表示される画面および [Setup] をクリックして表示される [ログ収集] 画 面以外の画面については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュ アル(プロファイル管理機能編)』(C122-0003)を参照してください。

# 5.1 [Facility Manager] 画面

[Facility Manager] 画面には、データセンターのフロアおよびラックに搭載されている機器の情報が表示されます。

画面左側のツリーエリアと右側のワークエリアに分かれていて、ツリーエリアには、表示または設定する 情報に応じて次のタブが用意されています。

- ダッシュボード
- 一覧
- グループ
- レポート
- しきい値
- インベントリ
- ログ収集
- 仮想管理ソフトウェア情報

タブを切り替えると対応する画面が表示されます。 タブごとの画面のツリーエリアで表示対象を選択すると、ワークエリアの内容が切り替わります。

# 5.1.1 [ダッシュボード] タブ(富士通Modular Data Center使用時のみ表示)

[Facility Manager] 画面の [ダッシュボード] タブは、富士通Modular Data Center使用時のみ表示されます。 [ダッシュボード] タブをクリックして表示される画面では、PUE、消費電力、空調機の情報などが一目で 確認できます。

erverView				administrator D0701	rums
(シスト 管理者設定 サー	-パデータ管理 イベト管理 サー	- 小型視 アップデート管理	200 セキュリティ		~10
			(ンフラ管理		
>> インフラ管理					
y Manager   Facility Brows	gi Palekkaner(DiskhMa		**************************************	Anviatantes ManagerA	1.000
7-来」	1				-
ゴンラナダッシュボード	コンテナ全体の総計				
	PLE	(自要電力)(199)	冷颤	5000 fille	r I
		1.64	13.33	13.30	
	1 18 20 28 30	3.5 6 20 20	xi 40 50 6 30	20 30 40 90	
	詳細 (PWR電力(KW0SA給気温)	教(10)- 給気温度設定値(10)= 差(1	C) RAI開発這度(C)CPWRO非統出力	(KWOOA外氨基度(C)AF层量(mM	603
	サーバA系	サーバロー系	<b>空調</b> 本長	空調回係	
	PVVR : 6.81	PWR: 1.51	PWR:1.82	PWR: 3.19	
	0 2 4 6 8 20	0 2 4 4 4 20	0 2 4 4 4 30	0 2 4 6 6 10	
	Cooling	Cooling2	Coolings	Coolings	
	SA : 24.2 - 27.0 = -2.8	SA : 18.0 - 18.0 = 0.0	SA : 21.3 - 22.0 = -0.7	SA : 20.3 - 18.0 = 2.3	
	0 10 20 20 40 50	0 50 20 30 40 50	0 10 20 20 40 50	0 30 20 30 40 50	
	RA : 24.2	RA : 24.0	RA : 21.6	RA : 23.5	
	0 10 20 30 40 50	0 30 20 30 40 50	0 10 20 30 40 50	0 30 20 30 40 50	
	CPWR:0.0	CPWR: 10.1	OPWR:0.0	OPWR: 3.2	
	0 2 4 6 8 30	0 30 20 30 40 50	0 2 4 6 8 30	0 2 4 6 8 20	
	OA : 22.9	OA:23.4	OA : 23.3	0A:23.3	
	0 10 20 30 40 50	0 30 20 30 40 50	0 10 20 30 40 50	0 20 20 30 40 50	
	AF : 5000.0	AF : 5000.0	AF : 7000.0	AF : 3000.0	1
			0 28 46 46 46 10 10		
Sec. 1			T IN TH IN IN IN		
-	Rack-1	Rack-2	Rack-3	Rack-4	
<b>(E</b>	PWR:0.0	PWR:0.0	PWR : 0.06	PWR: 0.0	

No.	項目	説明	
(1)	ダッシュボード	富士通Modular Data Center使用時のみ表示。	
		- [コンテナ全体の総計]	
		PUE、 消費電力、冷却能力が表示される。	
		- [詳細]	
		以下の機器について計測データが表示される。	
		- 電力系統ごと:消費電力	
		- 空調機ごと:給気温度、還気温度、冷却能力、外気温度、給気風量	
		- ラックごと:消費電力	
		異常、警告を検出した機器については、状態(ステータス)を示すアイコンが	
		表示され、表示色が以下のように変更される。	
		- 赤:異常	
		- 黄:警告	
		アイコンについては「5.5 アイコン・画像」参照。	

# 5.1.2 [一覧] タブ

[Facility Manager] 画面の [一覧] タブには、SVFMに登録されている各種機器がツリー形式で表示されます。 ツリーで選択した項目によって、ワークエリアに表示される内容が切り替わります。 以下に、ツリーの項目ごとの画面の概要を説明します。

## ■ [全ての機器] 画面(サーバ/スイッチ/ストレージ/ファシリティ機器)

[全ての機器] 画面には、ツリーで選択したICT機器およびファシリティ機器の状態が表示されます。

2-100% Rd 8108	9-119-	3 4.04	-riself 7	123-6 4225	10#a034	_		0.1/2	
- 1/25接機									
Hane 24 - 02 - 25 地理									
acility Manager   Facility	Browser	<b>Profile Manage</b>	x   Setup   Main	stenance		Serv	erView Infrastructs	are Manager V1.20.01	
		0488							
*- <u>%</u>		E#03	- C	* #2	5一款	○部分一款	○ 独方一款	7:09	
バ バ スイッチ		0 K A K	0 20						
8 214-5		888	PPFL3	£7.66	S/N	999	历史记录	0-56/-1	
	0	CAM-1	10.253.09		SEQuores	-	-	front room	
Rack-1		CAM-2	10.25.3.07		SEQuotox	-		cold hile	
Rack-2 Rack-0 Rack-0	:0	CAM-3	10.25.3.00		SEQuences	-	-	hot hile	
	0	CatalistR1241	192.168.1.2		SEQuonox	Rack-1	45 U / 1	Catalut 375DI-24"	
- Rack-5		CataliatR1242	192.168.1.1		SEQuotox	Rack-1	47 U / 1	Cataliat 37580-241	
Rack-5	10	CXRUI		PRIMERGY CHAIN	SEQuonx	Rack-0	10/2	C10888	
Back-I	0	CXROUD		PRIMERGY CX488	SEQuotox	Rack-3	30/2	C10888	
	9	CXRBUS		PRIMERGY CHANG	SEQuotox	Rack-8	5U/2	C10888	
		Col809.84821	10.25.4.21	D08852	SEQuence	Rack-4	10/10	0x8852	
	0	FEPOD	10.25.1.7			-	-	POD	
		F-SITE	10.25.1.12		FESITE99	-		Inseide Temp	
	9	<b>SFConverter</b>	10.25.1.10		SEQNOON			Light,State	
	0	FConverter2	10.25.1.14		SEQuoroox	-		Pow,supply,f,leak.	
		LC5296524	192.188.2.4	Gatalyst 2960-29-0	SEQuotox	-		Catalyot 2980-24-0	
	0	LOSINGIPS-1	192.168.3.1	Catalyst 3589CO-8	SEQx0000X	-		Catalyst 3568009-E	
	0	LCSINGIPS-2	192.168.3.2	Catalyst 3580CQ-8	SEQx0000	-	-	Catalyst 3588CG-E	
		PDUI-A1	10.25.1.111		SEQuotox	Rack-1		PDU-1-A1	
	- 6	PDUID-AD	10.25.1.121		SEQueener	Back-1		PDLb1-A2	

No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択した機器に応じて表示が切り替わる。
		- [全ての機器]
		登録されているすべてのICT機器およびファシリティ機器の一覧がワークエ
		リアに表示される。
		- [サーバ]
		登録されているサーバの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示される。
		- [スイッチ]
		登録されているスイッチの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示さ
		れる。
		- [ストレージ]
		登録されているストレージの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示
		される。
		- [ファシリティ機器]
		登録されているファシリティ機器の一覧がツリーに展開され、ワークエリア
		に表示される。
		ラックを右クリックして表示されるメニューで [消費電力制御設定] をクリック
		すると、[消費電力制御設定] 画面が表示され、ICT機器の電力モニタリングと
		省電力制御の設定や実行ができる。詳しくは「5.1.9 [消費電力制御設定] 画面」
		を参照。
(2)	フィルタ	ワークエリアの一覧に表示される項目の値を指定して、[フィルタ] ボタンをク
		リックすると、一覧の情報が絞り込んで表示される。
(3)	ワークエリア	ツリーエリアで選択した機器の一覧を表示。一覧に表示される項目は以下のと
		おり。
		- 状態(ステータス)
		機器の状態(ステータス)を示すアイコンが表示される。
		アイコンについては「5.5 アイコン・画像」参照。
		- [機器名]
		Web i/f (URL) が設定されている場合、ダブルクリックすると設定されたア
		プリケーション(各機器のWeb GUIなど)が起動。
		- [IPアドレス]
		- [モデル]
		- [S/N]
		- [ラック]
		搭載したラック番号
		- [搭載位置]
		ラックの搭載したユニット番号と使用ユニット数
		- [ローカルノート]

ワークエリアに表示される一覧の各行を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。 コンテキストメニューの項目と実行できる機能は以下のとおりです。

- プロパティの表示

選択した機器のプロパティが表示されます。

	ICT機器	空調ユ ニット	分電盤	その他	ラック	コンテナ
コンテナ名	×	×	×	×	×	0
ラック番号	×	×	×	×	0	O
ラック名	×	×	×	×	Ø	×
コンテナ設置場所	×	×	×	×	0	0
機器名	0	0	0	0	×	×
S/N	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
型名	Ø	Ø	Ø	Ø	0	0
導入(設置)年 月日	0	0	0	0	0	0
IPアドレス	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
モデル名	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
システム名	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
機器タイプ	0	0	0	0	×	×
ベンダ名	0	0	0	0	0	0
コミュニティ名	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
アカウント	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
パスワード	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
ローカルノート	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø
接続PDU	Ø	×	×	×	×	×
Web i/f(URL)	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø
サブURL	Ø	Ø	Ø	Ø	×	×
識別灯	Ø	×	×	×	×	×
センサー情報	Δ	0	0	Δ	0	×
パワーキャッピ ング	×	×	×	×	0	×
制御設定	×	Ø	×	×	×	×
設定温度	×	Ø	×	×	×	×
風量設定	×	Ø	×	×	×	×
運転状態	×	Ô	×	×	×	×

◎:書込可、〇:表示のみ、△:機器により表示、×:非表示

画面を開く

Web interface (URL) およびサブURLが設定されている場合にメニュー項目が表示されます。 設定されたURL (機器のWeb GUIなど)が起動されます。

- 削除

選択した機器の情報を削除します。

- 移動

ICT機器のラック搭載位置を変更した場合に、情報を移動することができます。 移動したい機器を選択し、コンテキストメニューから [移動] を選択すると、[機器移動] 画面がポップ アップ表示されます。 現在の搭載位置が表示されるので、移動先のラックを選択し搭載位置を決定すると、情報が移動します。

#### - 状態クリア

選択したICT機器もしくはファシリティ機器から故障や異常検知によるTrapのアラート通報を受信 し、[状態(ステータス)]に異常または警告を示すアイコンが表示されている場合にメニュー項目が 表示されます。

異常または警告を示すアイコンが表示されている機器を選択し、コンテキストメニューから[状態クリア]を選択すると、異常または警告を示すアイコンがクリアされます。

### ■ [ラックレイアウト]画面

富士通Modular Data Center以外の場合に表示されます。

[ラックレイアウト] 画面では監視対象として登録されているラックの配置が表示されます。



[編集] ボタンをクリックすることで、ラックの位置を編集することができる編集モードとなります。 編集モードで画面を右クリックすると [ラック登録] メニューが表示され、[ラックレイアウト] 画面に表示 されていない登録済みのラックを画面に配置することができます。

また、編集モードではすでに設置してあるオブジェクトをドラッグすることで位置を変更することができます。



### ■ [コンテナ] 画面

富士通Modular Data Center使用時に表示されます。

[コンテナ] 画面には、コンテナ全体を上から見た図が表示され、各ファシリティ機器の概要を確認できます。



No.	項目	説明
(1)	[コンテナ]	クリックすると、コンテナを上から見た図をワークエリアに表示。
(2)	ワークエリア	コンテナを上から見た図を表示。

No.	項目	説明
(3)	温度/湿度	オプションの温度/湿度センサーが設置された場合に温度/湿度を表示。
(4)	照明操作(天井灯)	[ON] ボタンまたは [OFF] ボタンをクリックしてコンテナの天井灯のオン/オ
		フを操作。
		コンテナ内の天井灯スイッチの操作が優先される。
(5)	詳細情報	ワークエリアの各オブジェクトをマウスでポイントしたときに、各機器の詳細
		情報を表示。
		機器ごとの詳細情報は「[コンテナ] 画面 - 機器ごとに表示される詳細情報」参照。
(6)	ラック	クリックすると、[ラック] 画面に切り替わる。
		搭載している機器のいずれかに、無応答、警告(しきい値超過含む)、異常(し
		きい値超過含む)が検出されている場合、以下の色で表示される。
		白:無応答
		黄:警告
		赤:異常
(7)	空調ユニット	ユニット番号は、分電盤側から1~4となる。
		無応答、警告(しきい値超過)、軽故障(*1)、異常(しきい値超過)、重故障
		(*2)が検出されているユニットがある場合、以下の色で表示される。
		白:無応答
		黄:警告/軽故障
		赤:異常/重故障
(8)	分電盤	無応答、警告(しきい値超過)、異常(しきい値超過)が検出されている場合、
		以下の色で表示される。
		白:無応答
		黄:警告
		赤:異常
(9)	冷却、消費電力	消費電力(コンテナ全体)、冷却出力(コンテナ全体)、PUE(Power Usage
		Effectiveness)を表示。
		PUEは正時ごとの消費電力量から算出する。

### [コンテナ] 画面 - 機器ごとに表示される詳細情報

項目	説明
ラック	- 名称 - ステータス:ラックに搭載している機器の状態により、正常、警告、異常、 無応答のいずれかを表示する。

項目	説明
空調ユニット	- 名称
	- ステータス
	正常、警告(軽故障/しきい値超過)、異常(重故障/しきい値超過)、無応
	答のいずれが表示される。
	- 給気(SA) 温度
	- 還気(RA)温度(°C)
	- 冷却出力(kW)
	- 外気(OA) 温度(℃)
	- 給気(SA) 風量設定(m³/h)
	- 給気(SA) 温度設定(℃)
	- 運転操作(ON/OFF)
	- 重故障(*2)
	- 軽故障(*1)
	- 操作場所(リモート/ローカル)
分電盤	- 名称
	- ステータス
	正常、警告(しきい値超過)、異常(しきい値超過)、無応答のいずれかが表
	示される。
	- 電力(kW)
	- 電力量(kWh)
	- 需要電力(kW)

[コンテナ] 画面 - 機器ごとに表示される詳細情報 (続き)

\*1: 軽故障とは、温度が設定値範囲に入らないが空調ユニットの運転が継続可能な異常要素を指す。

\*2: 重故障とは、空調ユニットが停止、または停止の可能性が大きい、または制御システムは動作継続している が冷却できない異常状態を指す。

### ■ [ラック] 画面

[ラック] 画面には、ラックに搭載されているICT機器の情報が表示されます



No.	項目	説明
(1)	[ラック]	機器の状態(ステータス)を示すアイコンと名称を表示。
		アイコンについては「5.5 アイコン・画像」参照。
		クリックすると、ラックに搭載されている機器の情報が、ワークエリアに表示
		される。
(2)	ワークエリア	ラックに搭載されている機器の情報を表示。
(3)	詳細情報	ワークエリアの各オブジェクトをマウスでポイントしたときに、各詳細情報を
		表示。
		機器ごとの詳細情報は「[ラック] 画面 - 機器ごとに表示される詳細情報」参照。
(4)	ラック搭載機器	サーバ、ストレージ、スイッチの搭載位置などを表示。
	[ICT機器]	青いラベルに、機器の種類が以下のように表示される。
		SV : サーバ
		ST : ストレージ
		SW:スイッチ
		Web i/f(URL)が設定されている場合、ダブルクリックすると設定されたアプ
		リケーション(各機器のWeb GUI)が起動される。

項目	説明
ラックサーバ、ブレードサーバ/マルチノードサーバ	- 名称
(*1)	- ステータス
	- モデル名
	- IPアドレス
	- 搭載位置
	- 接続PDU
	- CPU温度
	- 吸気温度
	- 消費電力
	- 識別灯
ストレージ、ネットワークスイッチ	- 名称
	- ステータス
	- モデル名
	- IPアドレス
	- 搭載位置
	- 接続PDU
	- 吸気温度
	- 消費電力

[ラック]画面 - 機器ごとに表示される詳細情報

\*1: ブレードサーバまたはマルチノードサーバをクリックした場合、ワークエリア内にシャーシ画面を表示する。

ワークエリアに表示される各オブジェクトを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。 コンテキストメニューの項目と実行できる機能は次のとおりです。

- プロパティ

各機器のプロパティを参照、編集する [機器プロパティ] 画面が表示されます。 表示される項目については「[ラック] 画面 - 機器プロパティ項目」参照。

🚹 注意

[FirstSight] 画面が表示された状態で機器プロパティの値を変更しても、変更内容は [FirstSight] 画面 に反映されません。機器プロパティの値を変更する場合、編集する前に [FirstSight] 画面を閉じてく ださい。[FirstSight] 画面を表示したまま機器プロパティを変更した場合、[FirstSight] 画面をいった ん閉じて表示し直すと、変更内容が反映されます。

画面を開く

Web interface (URL) およびサブURLが設定されている場合にメニュー項目が表示されます。 設定されたURL (機器のWeb GUIなど) が起動されます。

- <グループ定義名>

[グループ定義] 画面を表示します。 詳細については「5.1.8 [グループ定義] 画面」を参照。

- 削除

選択した機器の情報を削除します。

- 移動

ICT機器のラック搭載位置を変更した場合に、情報を移動することができます。

移動したい機器を選択し、コンテキストメニューから [移動] を選択すると、[機器移動] 画面がポップ アップ表示されます。

現在の搭載位置が表示されるので、移動先のラックを選択し搭載位置を決定すると、情報が移動します。 状態クリア

選択したICT機器もしくはファシリティ機器から故障や異常検知によるTrapのアラート通報を受信 し、異常または警告を示すアイコンが表示されている場合にメニュー項目が表示されます。 異常または警告を示すアイコンが表示されている機器を選択し、コンテキストメニューから[状態ク リア]を選択すると、異常または警告を示すアイコンがクリアされます。

タブ名称	項目	説明
プロパティ	機器名	機器名を表示。
	ベンダ名	ベンダー名を表示。
	型名	型名を表示/変更。
	S/N	シリアル番号を表示/変更。
	モデル名	モデル名を表示/変更。
	システム名	システム名を表示/変更。
	機器タイプ	機器タイプを表示。
	導入(設置)年月日	導入(設置)年月日を表示。
	IPアドレス	IPアドレスを表示/変更。
	MACアドレス	MACアドレスを表示/変更。
	アカウント	アカウントを表示/変更。
	パスワード	パスワードを変更。(入力したパスワードは●で表示さ
	パスワード(確認)	れる)
	コミュニティ名	コミュニティ名を表示/変更。
	Web i/f(URL)	機器をダブルクリック、または[画面を開く]-[Web i/f]を
		選択した場合に表示されるWeb interfaceのURLを表示
		/変更。
拡張	サブURL	サブURLの名称およびURLを表示/変更。ここで設定
		したサブURLは、コンテキストメニュー [画面を開く]
		に追加される。
	ローカルノート	ローカルノートを表示/変更。
	接続PDU	未サポート。
センサー	センサー情報	ステータスアイコン、センサー名称、測定値を表示。
		表示されるセンサーは選択した機器によって異なる。
		詳しくは「[ラック] 画面 - 機器プロパティ項目(表示さ
		れるセンサー)」参照。
管理OS	HOST名	HOST名を表示/変更。
(サーバ、サーバブレード	OS種別	OSを表示/選択。
を選択した場合のみ)	IPアドレス	OSのIPアドレスを表示/変更。
	アカウント	OSアクセスに使用するアカウントを表示/変更。
	パスワード	OSアクセスに使用するパスワードを変更。(入力したパ
	パスワード(確認)	スワードは●で表示される)

[ラック] 画面 - 機器プロパティ項目

機器	センサー
シャーシ	消費電力(W)
サーバ、サーバブレード	識別灯
	CPU温度(℃)
	吸気温度(℃)
	消費電力(W)
Converged Fabric Switch	消費電力(W)
	Fabric/Domain/Switch
	吸気温度(℃)
Converged Fabric Switch Blade	消費電力(W)
	Fabric/Domain/Switch
ストレージ (*1)	消費電力(W)
	吸気温度(℃)
スイッチ、FCスイッチ(*2)	吸気温度(℃)または筐体温度(℃)
	消費電力(W)

[ラック] 画面 - 機器プロパティ項目(表示されるセンサー)

\*1: コントローラーエンクロージャーのみ。ドライブエンクロージャーにはセンサーは表示されない。

\*2: 消費電力は富士通製スイッチの場合のみ表示されます。また、Cisco製スイッチの一部機種では筐体温度取得 が未サポートとなります。Cisco製スイッチのWeb i/fで温度が表示されない機種では温度が取得されず、ISM のユーザーインターフェース上では常に「0」(℃)と表示されます。

# 5.1.3 [グループー覧] タブ

[Facility Manager] 画面の [グループー覧] タブには、ユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。 ここで作成したグループに対して、消費電力制御や、 [グループ定義] 画面、[FirstSight] 画面での表示を 行うことができます。



No.	項目	説明
(1)	[グループ]	クリックすると、ワークエリアにユーザーが作成したグループの一覧を表示。
		グループを選択して右クリックすると、コンテキストメニューが表示される。
		メニューから「消費電力制御設定」を選択すると、[消費電力制御設定] 画面が
		表示され、ICT機器の電力モニタリングと省電力制御の設定や実行ができる。
		詳しくは「5.1.9 [消費電力制御設定]画面」を参照。
(2)	ワークエリア	ユーザーが作成したグループの一覧を表示。
		また、作成したグループを右クリックすると [グループ設定] メニューが表示さ
		れ、グループに対して「消費電力制御設定」を行う、または「FirstSight表示」
		を行うかを設定できる。
		- 「消費電力制御設定」を行う場合
		[消費電力制御設定] 画面が表示される。詳しくは「5.1.9 [消費電力制御設
		定]画面」を参照。
		- 「FirstSight表示」を行う場合
		[FirstSight] 画面が表示される。詳しくは「5.1.10 [FirstSight] 画面」を参照。
		「FirstSight表示」を行う場合、グループに含まれる機器がすべてFirstSight未
		サポート機種の場合には以下の警告メッセージが表示される。
		グループ設定されている機器が全てFirstSight未サポートです。
		FirstSightの詳細は「5.1.10 [FirstSight] 画面」を参照。
(3)	[新規作成] ボタン	クリックすると、グループを新規作成するための [グループ作成] 画面が表示さ
		れる。

No.	項目	説明
(4)	[変更] ボタン	作成したグループを選択した場合に使用できる。
		クリックすると、グループを修正可能な [グループ作成] 画面が表示される。
(5)	[削除] ボタン	選択しているグループを削除。

## ■ [グループ作成] 画面



No.	項目	説明
(1)	グループ	グループ名を全角/半角32文字以内で入力。
		グループの変更を行う場合、グループ名は変更できない。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器を選択。
		選択すると、該当する機器が「(3)ファシリティ機器リスト」に表示される。
(3)	ファシリティ機器リスト	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧を表示。
		[Shift] キーを押しながらクリック、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複
		数の機器を選択できる。
(4)	[選択] ボタン	以下のボタンでグループに追加する機器の選択、選択の取消を行う。
		- [>]
		「ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象とする。
		- [すべて>>]
		「ファシリティ機器リスト」に表示されている機器すべてを対象とする。
		- [<<すべて]
		「グループ対象ファシリティ機器リスト」に表示されている機器すべてを取
		り消す。
		- [<]
		「グループ対象ファシリティ機器リスト」で選択した機器を取り消す。
(5)	グループ対象ファシリティ	グループ対象とする機器の一覧を表示。
	機器リスト	

No.	項目	説明
(6)	[キャンセル] ボタン	グループ設定を取り消し、画面を閉じる。
(7)	[保存] ボタン	グループ設定を保存し、画面を閉じる。

#### ① 情報

[FirstSight] 画面でPRIMERGY BXシリーズの表示を行う場合、グループ対象ファシリティ機器リストには シャーシを追加してください。サーバブレードのみ追加しても [FirstSight] 画面には表示されません。

# 5.1.4 [レポート] タブ

[Facility Manager] 画面の [レポート] タブには、ユーザーが作成したレポートの一覧が表示されます。 レポートの新規作成、レポートの削除、グラフ表示などができます。



No.	項目	説明
(1)	[レポート]	[レポート](ルート) をクリックすると、現在設定されているレポートの一覧
		をワークエリアに表示。
		レポートは最大255個定義できる。
		個別のレポートをクリックすると、[レポート] タブ(グラフ表示) に表示が切
		り替わる。
(2)	ワークエリア	現在設定されているレポートの一覧を表示。
		レポート名と選択したセンサリストが表示される。
(3)	[新規作成] ボタン	クリックすると、レポートを新規作成するための [レポート設定] 画面が表示さ
		れる。
(4)	[変更] ボタン	クリックすると、一覧で選択したレポートの設定内容を読み込んだ[レポート
		設定]画面が表示される。
(5)	[削除] ボタン	一覧で選択しているレポートを削除。

## ■ [レポート設定] 画面



No.	項目	説明
(1)	レポート名	表示するセンサーを選択した個別のレポート定義名を全角/半角32文字以内で
		入力。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器を選択。
		選択すると、該当する機器が「(4)ファシリティ機器リスト」に表示される。
(3)	センサータイプ	「(2) 機器タイプ」で選択した機器に該当するセンサーに絞り込んで表示され
		るので、表示するセンサーを選択。
(4)	ファシリティ機器リスト	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧を表示。
		[Shift] キーを押しながらクリック、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複
		数の機器を選択できる。
(5)	センサリスト	「(4) ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象として、「(3) センサー
		タイプ」で選択されたセンサーに一致するセンサーの一覧が表示される。
		[Shift] キーを押しながらクリック、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複
		数の機器を選択できる。
(6)	[選択] ボタン	以下のボタンで「(5) センサリスト」と「(7) レポート対象センサリスト」間
		で対象の選択、選択の取消を行う。
		- [>]
		「(5) センサリスト」で選択したセンサーを対象とする。
		- [すべて>>]
		「(5) センサリスト」に表示されているセンサーすべてを対象とする。
		- [<<すべて]
		「(7) レポート対象センサリスト」に表示されているセンサーすべてを取り
		消す。
		- [<]
		「(7) レポート対象センサリスト」で選択したセンサーを取り消す。

No.	項目	説明
(7)	レポート対象センサリスト	レポートで表示対象とするセンサーの一覧を表示。
		最大8個までセンサーを指定できる。
(8)	[キャンセル] ボタン	レポート設定を取り消し、画面を閉じる。
(9)	[保存] ボタン	レポート設定を保存し、画面を閉じる。
		単位の異なるセンサーが選択されていると、警告メッセージが表示され保存で
		きない。

## ■ [レポート選択] 画面



No.	項目	説明
(1)	レポート(個別)	個別のレポートをクリックすると、レポートを選択した状態になる。
		開始日時、終了日時、プロット間隔を指定し、[表示]ボタンをクリックすると、
		ワークエリアにグラフが表示される。
(2)	ワークエリア	初期状態([表示] ボタンがクリックされるまで)では、操作ガイダンスを表示。
		[表示] ボタンがクリックされると、現在選択されているレポートのグラフを
		表示。表示イメージは「[レポート選択] 画面 - グラフ表示」参照。
		グラフ上で、マウスを使用して範囲を指定すると、拡大・縮小できる。
(3)	開始日時	グラフを表示する開始日時を指定。
(4)	終了日時	グラフを表示する終了日時を指定。
(5)	プロット間隔	グラフのプロット間隔を、「1分」、「10分」、「1時間」、「1日」、「1ヶ月」から選択。
		開始日時と終了日時の範囲で自動的に初期値が決定される。
		~30日:10分
		30~90日:1時間
		91日~365日:1日
(6)	[エクスポート] ボタン	グラフを表示しているレポートをcsv形式で出力。
(7)	[表示] ボタン	クリックすると、指定した表示期間のグラフを表示。



[レポート選択] 画面 - グラフ表示

## 5.1.5 [しきい値]タブ

[Facility Manager] 画面の [しきい] タブには、ユーザーが作成したしきい値の一覧が表示されます。

H-10175	100-2 Corte	Hart Mills	COD MANURA		0.5
S-MAR BABBLE S		2-110kth 1923-1	CIT-WH	-	
tome as a constant	_	_	177784	_	_
acility Manager   Facility Bro	waer   Profile Manag	er   Setun   Maintenance	See	verView Infrastr	octure Manager VI 20
► -½	LADGE-W	or I sound I commissioners			and the second sec
▶ グループー覧	D.A.VEG	LAUM	対象化.ター	LACIER	29-92
* LE-1 V LECHE			- Min Sec 7		
CPUtemp     Power Threshold	CPUtemp	上現世帝 453 下現世帝 45 下現皇帝 45	RC83R0288-2 CPU温度 RC83R0288-1 CPU温度 R0288_8 CPU温度	WC0	ок
	PowerThreshold	上球業本 153 上球世俗 103 下球型合 0.0 下球業本 0.0	Rack=1 消費電ブル340 Rack=2 消費電ブル340 Rack=3 消費電ブル340 Rack=3 消費電ブル340 Rack=5 消費電ブル340	NI(1	ок (2)
<ul> <li>心心何</li> </ul>	·····		Billion Cont	1	
► 0.5%T.B.			PORTIDA		

No.	項目	説明	
(1)	[しきい値]	クリックすると、ユーザーが作成したしきい値の一覧をワークエリアに表示。	
		最大255個のしきい値を定義できる。	
		ツリービューを開き、表示されるしきい値名を選択すると、ワークエリアには、	
		選択したしきい値のみ表示され、しきい値設定を変更できる。	
(2)	ワークエリア	ユーザーが作成したしきい値の一覧を表示。	
		しきい値名、設定されているしきい値、監視対象のセンサリスト、しきい値の	
		監視単位(単体値、合計値)、ステータス(通常=OK、しきい値超過検出=NG)	
		が表示される。	
(3)	[新規作成] ボタン	クリックすると、しきい値を新規作成するための [しきい値設定] 画面が表示さ	
		れる。	
(4)	[変更] ボタン	「(1) しきい値」で、既存のしきい値を選択すると使用できるようになる。	
		クリックすると、既存のしきい値を変更するための [しきい値設定] 画面が表示	
		される。	
(5)	[削除] ボタン	表示されているしきい値(「(1) しきい値」で選択したしきい値)を削除。	

## ■ [しきい値設定] 画面



No.	項目	説明	
(1)	しきい値名	しきい値の監視定義名を全角/半角32文字以内で入力。	
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器を選択。	
		選択すると、該当する機器が「(4)ファシリティ機器リスト」に表示される。	
(3)	センサータイプ	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当するセンサーに絞り込んで表示され	
		るので、表示するセンサーを選択。	
(4)	ファシリティ機器リスト	「(2)機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧を表示。	
		[Shift] キーを押しながらクリック、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複	
		数の機器を選択できる。	

No.	項目	説明
(5)	センサリスト	「(4) ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象として、「(3) センサー
		タイプ」で選択されたセンサーに一致するセンサーの一覧が表示される。
		[Shift] キーを押しながらクリック、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複
		数の機器を選択できる。
(6)	[選択] ボタン	以下のボタンで「(5) センサリスト」と「(7) しきい値対象センサリスト」間
		で対象の選択、選択の取消を行う。
		- [>]
		「(5) センサリスト」で選択したセンサーを対象とする。
		- [すべて>>]
		「(5) センサリスト」に表示されているセンサーすべてを対象とする。
		- [<<すべて]
		「(7) しきい値対象センサリスト」に表示されているセンサーすべてを取り
		消す。
		- [<]
		「(7) しきい値対象センサリスト」で選択したセンサーを取り消す。
(7)	しきい値対象センサリスト	しきい値の監視対象とするセンサーの一覧を表示。
		最大255個までセンサーを指定できる。
(8)	上限異常しきい値/上限警	センサーの計測値が上昇した場合、最初に警告として通知するしきい値を「上
	告しきい値	限警告しきい値」で指定。そのまま上昇を続けた場合、異常として通知するし
		きい値を「上限異常しきい値」で指定。しきい値の監視対象外とする場合、0
		を指定。
		単位は以下のとおり。
		温度:℃
		電力、消費電力:kW
		冷却出力:kW
		消費電力量:kWh
		電圧:V
		電流 : A
(9)	下限警告しきい値/下限異	センサーの計測値が下降した場合、最初に警告として通知するしきい値を「下
	常しきい値	限警告しきい値」で指定。そのまま下降を続けた場合、異常として通知するし
		きい値を「下限異常しきい値」で指定。しきい値の監視対象外とする場合、0
		を指定。
		単位は以下のとおり。
		温度:℃
		電力、消費電力:kW
		冷却出力:kW
		消費電力量:kWh
		電圧:V
		電流:A
No.	項目	説明
------	-------------	---------------------------------------
(10)	通知設定	しきい値超過を検出した場合の通知の重要度を指定。
		「異常」、「警告」、「正常」から任意に指定できる。
		初期値は以下のとおり。
		- 「上限異常しきい値」:異常
		- 「上限警告しきい値」:警告
		- 「下限警告しきい値」:警告
		- 「下限異常しきい値」:異常
(11)	しきい値監視間隔	60~3600(秒)の範囲で指定。
(12)	しきい値の監視単位	「(6) しきい値対象センサリスト」で選択したセンサーの計測値を、単体で監
		視するか、合計値として監視するか選択。
(13)	[キャンセル] ボタン	しきい値設定を取り消し、画面を閉じる。
(14)	[保存] ボタン	しきい値設定を保存し、画面を閉じる。

## 5.1.6 [インベントリ] タブ

[Facility Manager] 画面の [インベントリ] タブには、管理している機器を登録・更新・削除した履歴情報 が表示されます。

- 登録: ISMに機器を登録した日時
- 更新:プロパティ情報が更新された日時
- 削除:機器を削除した日時

サーバリスト 管理者認定	9-157-9 4154 9	ナーノの証明	7927-1	1/25	世キュリティー	_	_	_	~140	ŝ.
				インフラ管	e .					
Home >> インフラ管理			_	_	_					
Facility Manager   Facility Be	owser   Profile Manager   Se	1002				ServerV	iew Infrastru	ture Man	ager V1.10.1	14
■ 5%2#=K	10/10/11 - 全ての報告									
►- <u>%</u>	Brt	INNY	485	P7FL2	MACPFL3	17.66	S/N	595No	154108	r
• (d-)	2014-02-29 18:20:01	发时	F0(27R72128	192.168.35.11		PRIMEROY R	MAAQ007170	7	29 U	
- (.c.)	2014-02-12 112618	64b	Rt27LAB018	192.168.100.12		PRIMEROY R	W.Doosor	1	20	
	2014-02-04 114940	更新	R0(27R72114	192.168.100.8		PROMERCY PC	MAAQ007172	7	14 U	ł.
8- 4-5	2014-02-04 1144.44	更新	R027LAB018	192.168.100.14		PRIMEROY R	YKJDoosoox	1	10	r
8 2.495	2014-02-04 114348	更新	R027LABO 18	192 168 35 30		PROMERCIY R.	W.Donoox	1	10	ł.
8 214-9	2014-02-04 114331	更新	R027LAB018	192,198,35,131		PRIMEROY R	W.Doosox	1	10	i.
<ul> <li>● 影影相目相思</li> </ul>	2014-02-00 1754/22	更新	F0(37F)83844	192 168 35 102		PROMERCIY PL	MAA/001989		17 U	1
	2014-01-24 113840	更新	R027LAB018	192.198.1.13		PRIMERGY R	YKJDoosoox	1	10	ł.
	2014-01-24 10:20:16	更新	SRR10340	192.168.05.14		SR-XIMITRI	00000411	1	40 U	ł.
	2014-01-24 10:27:35	更新	SRR11245	192.168.100.7		SR-XMITRI	00000445	1	42 U	1
	2014-01-24 10:20:07	更新	SRR01240	192.168.35.11		SR-XHOTRI	00000410	3	47 U	ł.
	2014-01-24 10:12:00	更新	Rx17R83814	192.168.108.12		PRIMEROY R	MALG001123	1	10	t.
	2014-01-24 10:11:04	更新	Rx17R83010	192.188.100.8		PRIMERGY R	MAUG001122		2 U	1
	2014-01-24 10:11:00	更新	Rx17R83812	192.168.100.14		PRIMEROY R	MALG001121	1	90	ł.
	2014-01-24 10:10:07	更新	Rx17R83013	192.168.35.30		PRIMERGY R	MAUG001119		18 U	
	2014-01-24 10:10:09	更新	Rx07R80041	192.168.35.101		PRIMEROY R	MAAROODOR	1	11.0	ł.
	2014-01-24 10:09:48	更新	Rx07R80845	192.188.35.132		PROMERCIY R	MAAR002042	8	10 U	t.
	2014-01-24 10:09:13	更新	Rx07R80043	192.168.1.10		PRIMEROY R	MAAROUTSEE	1	15 U	1
	2014-01-24 10:08:47	更新	Rx07R80844	192.188.35.14		PROMERCIY R	MAAR001969	8	17 U	ł.
	2014-01-24 10:00:00	更新	R007R80646	192.168.108.7		PRIMEROY R	MAAP002040	1	19 U	1
	2014-01-24 10.07.09	EB	R0(37R83642	192 168 100 11		PRIMEROY R	MAAR002041	8	21 U	١.

No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択した機器に応じて表示が切り替わる。
		- [全ての機器]
		登録されているすべてのICT機器およびファシリティ機器の一覧がワークエ
		リアに表示される。
		- [サーバ]
		登録されているサーバの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示される。
		- [スイッチ]
		登録されているスイッチの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示さ
		れる。
		- [ストレージ]
		登録されているストレージの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示
		される。
		- [ファシリティ機器]
		登録されているファシリティ機器の一覧がツリーに展開され、ワークエリア
		に表示される。
		- [削除機器履歴]
		削除した機器の一覧が表示される。
(2)	ワークエリア	ツリーエリアで選択した機器の一覧を表示。一覧に表示される項目は以下のと
		おり。
		- [日付]
		操作を行った日付
		- [操作]
		「登録」、「更新」、「削除」のいずれか
		- [機器名]
		管理対象の機器名
		- [MACアドレス]
		- [モデル名]
		- [S/N]
		- [フックNo]
		拾載したフック奋号
(3)	[エクスホート] ホタン	リークエリアに表示されている一覧をCSV形式で出力。

ワークエリアに表示される一覧の各行を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。 コンテキストメニューの項目と実行できる機能は以下のとおりです。

- 履歴

選択した機器の [操作履歴] 画面がポップアップ表示されます。

#### ■ [操作履歴] 画面

模糊名	1	PDU1-1		8£91	PDU			
IPPFLA	1	10.25.1.150 public		「搭載ラック情報――				
381274	1			3728	Rack.1			
MACPELA	1			う92番号	1			_
モデル名	1	AP8641		ラック語教位置	51			
S/N	1			補統PDU				
日付 7	141/1	根郡名	IPPFUZ	MACPIFUZ	モデル名	S/N	570160	554H03
日付 下 2014-02-12 1820 42	1417 1417	根間名 PDU1-1	<b>ምም</b> ቶላス 10253.150	MACPFLA	モデル名 AP6641	S/N	590No	新創化の
日付 で 2014-02-12 10:20:42	19/1 2213	根間名 PDU1-1	10251.150	MACPFLZ	モデル名 AP8641	S/N	590No 1	354H03
日付 て 2014-02-12 10:20:42	19/1 2:13	相群名 PDU1-1	1977%62 102511150	MACP/FLX	モデル名 AP8641	S/N	590No 1	括截位的
844 7 2014-10-12 10:20 42	神作	相關-名 PDUI-1	10251.150	MACPFLX	モデル名 AP8841	S/N	550No	1548(0)
日付 7 2814-02-12 1820 42	(19) (19) (19) (19) (19) (19) (19) (19)	報證名 PDU1-1	977Fb2 18251.159	MACPFLA	モデル名 AP8641	S/N	590No 1	5549(03

No.	項目	説明
(1)	属性情報	機器名、IPアドレスなど、管理情報を表示。
		情報が変更された箇所は赤文字で表示されます。
(2)	操作履歴	操作内容(登録、変更)と操作した日付などの履歴を表示。
(3)	[履歴削除] ボタン	「(2) 操作履歴」で選択した履歴を削除。
(4)	[エクスポート] ボタン	「(2)操作履歴」の内容をcsv形式で出力。
(5)	[閉じる] ボタン	画面を閉じる。

### 5.1.7 [仮想管理ソフトウェア情報] タブ

[Facility Manager] 画面の [仮想管理ソフトウェア情報] タブには、vCenterと連携してESXiホストおよび仮 想マシンの情報が表示されます。

本機能を使用するためには、[Setup] - [仮想管理ソフト設定]で[VMWare利用時の仮想管理ソフト]が登録されている必要があります。登録されていない場合、「仮想管理ソフト設定でvCenterが登録されていません」と表示されます。

ServerView		ユーザ: administrator ログアウト FUITSU
サーバリスト 管理者設定 サーバデータ	イベト サーノ電視 アップデート インクラ セキュリティ	~I.J.
	インフラ管理	
Home >> インフラ管理	and the second	
Facility Manager   Facility Browser   Pro	file Manager   Setup   Maintenance	ServerView Infrastructure Manager V1.2.0
<ul> <li>一覧</li> <li>- 万ルーブー覧</li> </ul>	ソフトウェア情報	
► La#-1-		
USUB     VO	enter	
► 0.7 KT		
▼ 仮想管理ソフトウェア情報	仮想管理ソフト設定でvCenterが登録されています	th.
• vCenter		

登録方法の詳細については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュ アル(プロファイル管理機能編)』(C122-0003)を参照してください。

vCenterの情報が登録されている場合、vCenterバージョン、ビルド番号、IPアドレスが表示されます。 [詳細表示] ボタンをクリックすると、詳細画面が表示されます。

Server	View							ユーザ: administrator ログアウト	ານທີ່ການ
サーバリスト	管理者決定	サーバデータ	1101 3	-) (建筑	アップデート	-1/75	セキュリティ		~IV3
						インフライ	FW		
Home >> インフ	戸管理								
Facility Mar	ager   Facility	Browser   Pro	ofile Manager	Setup	Maintenance			ServerView Infrastructure Manag	er V1.2.0
►-12 ► /11-7-12		反想管理	ソフトウェア情報						
► 5//-5-1 ► 1/ボート									
► U.8CVIB		100	enter					_	
► 七へつり			vCenter/5-9a	v	Aware vCenter Si	erver 5.1.0			
▼ 仮想絵理いつ	わっては経		ビルド番号	14	73053				
- Certer	227 000	_	IPPドレス	. 10	21.136.159				
-									
									-
								11×483	R:T:

詳細画面左側のツリーエリアには、vCenter-ESXiホスト-仮想マシンのツリー構造が表示されます。



ツリーエリアでvCenterを選択すると、画面右側のワークエリアにESXiホストがインストールされたサーバの物理位置情報が表示されます。

サーバブレードにESXiホストがインストールされている場合、ラック内のシャーシをクリックすると、 シャーシ内の情報が表示されます。



#### ① 情報

ESXiホストがインストールされたサーバがISMに機器登録されていない場合、そのサーバの物理位置情報 は表示されません。

また、ESXiホストがインストールされたサーバに対してOSのIPアドレスが設定されている必要があります。[一覧]画面の該当機器のプロパティよりOSのIPアドレスの設定を行ってください。

ツリーエリアでESXiホストを選択すると、ホストの物理搭載位置とvCenterから取得可能な簡易的なホスト情報が表示されます。

仮想管理ソフトウェア情報	X
	更新
Rack-3         ESX(ホスト43: 10258.109           電源ステータス: パワーオン         OS部()           OS部()         VMware ESX(8.10.0 uild-1482097           ホストデアドレス: 10258.109         Cンダー名: FULITSU           ビデル名: PEDMERGY F02200 S3         SUワル番号: MANSON1523           プロセッサ名: Intel(R) Xeon(R) OPU E5-2820 v2         0 2.10GHz           ソケット計: 1         1           コア数: 6         NIC数: 6           メモリ溶量: 16300.99 MB         メモリ消費量: 7528 MB           成態マシン酸: 3         1           サータストア名: 空登: 空を守量         datastore 1           マルマッマ         1710.89 GB	
	Reck-8     Reck-8

表示されるホスト情報は次のとおりです。

項目	説明
ESXiホスト名	ESXiホストマシンの名称。
	DNS設定していない場合はIPアドレスが名称となる。
電源ステータス	サーバの電源状態。
	パワーオフの場合通信不可となり電源状態が取得できないため不明となる。
OS種別	ESXiのOS名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのIPアドレス。
ベンダー名	ホストマシンのサーバベンダー名。
モデル名	ホストマシンのサーバモデル名。
シリアル番号	ホストマシンのサーバシリアルナンバー。
プロセッサ名	プロセッサのメーカーとタイプ。
ソケット数	ホストのマザーボードにあるプロセッサソケットの数。
コア数	プロセッサソケットあたりのCPUコアの数。
NIC数	ホストマシンに設置されたNICの数。
メモリ容量	ホストマシンのメモリ容量。
メモリ消費量	ホストマシンで使用されたメモリ容量。
仮想マシン数	ホストマシン配下の仮想マシンの数。

また、ホスト情報の下にはデータストア情報が表示されます。

項目	説明
データストア名	データストアの名称。
容量	データストアの最大容量。
空き容量	データストアの未使用領域の容量。

ツリーエリアで仮想マシンを選択すると、ESXiホストの物理搭載位置とvCenterから取得可能な簡易的な 仮想マシン情報が表示されます。



表示される仮想マシン情報は、次のとおりです。

項目	説明
仮想マシン名	仮想マシンの名称。
電源ステータス	仮想マシンの電源状態。
ゲストOS種別	仮想マシン上にインストールされているオペレーティングシステム名。
コンピュータ名	この仮想マシンに割り当てられているDNS名。
ゲストIPアドレス	この仮想マシンに割り当てられたプライマリIPアドレス。
VMwareToolsステータス	VMware Toolsのステータス。
	実行中でない場合、コンピュータ名とゲストIPアドレスが取得不可になる場合
	がある。
仮想コア数	仮想マシン上のプロセッサの数。
最大ホストCPU	仮想マシンに割り当てられたホストマシンのCPUリソースのクロック数。
消費されたホストCPU	消費されたホストCPU。
割当ゲストメモリ	仮想マシンに割り当てられたホストマシンのメモリの容量。
消費されたホストメモリ	仮想マシンが使用しているホストマシンのメモリの容量。

項目	説明
アクティブなゲストメモリ	使用されている仮想マシンのメモリの容量。
プロビジョニングしたストレージ	データストア上の仮想マシンに確保されているストレージ容量。
共有されないストレージ	1台の仮想マシンによって占有され、ほかの仮想マシンとは共有していないデー
	タストア容量。
使用済みストレージ	構成およびログファイル、スナップショット、仮想ディスクなどの仮想マシン
	ファイルによって実際に占有されたデータストアの容量。
ESXiホスト名	ホストマシンの名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのOS IPアドレス。

① 情報

 [更新] ボタンをクリックすると、[詳細表示] ボタンをクリックして表示される詳細画面の情報および ツリーの情報が最新の状態に更新されます。

ESXiホスト、仮想マシンの追加/削除やクラスタ構成時のライブマイグレーション実行後など、ツ リーに表示される情報と画面右側のワークエリアに表示される情報に一部不整合が生じる場合があり ます。

その場合は [更新] ボタンをクリックして、最新の情報へ更新してください。

- ISMでは、Linked Mode構成など複数のvCenterが存在する場合でも、登録した1つのvCenterからの み情報を取得できます。また、現在登録してあるvCenterと別のvCenterを登録し直した場合、いった ん画面を閉じ、ServerView Infrastructure Manager Serviceサービスを再起動する必要があります。
- 仮想マシンのすべての情報を表示するためには、仮想マシンにVMwareToolsがインストールされている必要があります。

#### 5.1.8 [グループ定義] 画面

[グループ定義] 画面では、グループごとに機器構成を管理できます。 グループ設定を使って機器構成を定義するには、あらかじめグループを定義しておく必要があります。 グループの定義方法について詳しくは「5.1.3 [グループー覧] タブ」を参照してください。 [ラック] 画面の機器コンテキストメニューからグループ名を選択し、[グループ定義] 画面を表示できます。

<u>*</u>		GroupA	- 0	X
▼ FirstSight	CFX2000R-1			
E- Group A	機器名	CFX2000R-1		_
<ul> <li>RX200S8-1</li> <li>BX900S2-1</li> </ul>	ベンダ名	Fujitsu		
□- 🌗 DX100S3-1	型名	PY-GFX20R		
DX10083-2	S/N			
	モデル名	CFX2000R		
DX100S3-5	システム名			
	IPアドレス	192.168.1.200		
				_
(1)	(2)			

[グループ定義] 画面の(1)、(2)の部分に表示される内容について、それぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	[FirstSight] タブを表示。 ここで選択したラックに搭載されている機器の情報が、ワークエリアに 表示される。
(2)	ワークエリア	[FirstSight] タブで選択した項目によって、表示される内容が異なる。
	グループ名	グループに所属しているラックリストを表示。 表示イメージは「[グループ定義] 画面 - ラックリスト」参照。
	サーバ	監視対象サーバの情報を表示。 詳細については「5.1.10 [FirstSight] 画面」参照。
	その他機器(ETERNUS DXシリーズなど)	以下の項目を表示。 - 機器名 - ベンダ名 - 型名 - S/N - モデル名 - システム名 - IPアドレス

FirstSightのサポート機種などの最新情報については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/



[グループ定義] 画面 - ラックリスト

### 5.1.9 [消費電力制御設定] 画面

ISMでは、ICT機器ごとの消費電力を1分ごとに計測し、計測したデータを元に、電力モニタリングと省電 カ制御を実現できます。 [消費電力制御設定] 画面では、これらの機能を使用するための情報を設定したり、機能を実行したりします。

① 情報

- サーバおよびサーバブレードの消費電力、吸気温度を取得、表示するためには、消費電力制御設定を 行う必要があります。
- グループに対する消費電力制御設定を行うためには、あらかじめ、グループに所属するすべての機器
   で、ラックに対する消費電力制御設定を行っておく必要があります。
- 電力モニタリング

[Facility Manager] 画面で機器を選択して表示されるツールチップやレポート機能で、次の情報を確認できます。

- 各ICT機器の消費電力値
- ラック/グループごとの消費電力値

また、表示されるラック/グループごとの消費電力値は、以下の3通りから選択できます。

(1) インテリジェントPDUで計測

ラックに搭載したインテリジェントPDUで計測した消費電力値を計測します。ラックに複数のイン テリジェントPDUが搭載されている場合は、その消費電力値を合計します。(2)に比べ精度は高く なります。

(2) ラック/グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計

消費電力制御設定に従い、各ICT機器の消費電力を計測し、その値を合計します。計測した消費電力 値の精度は各機器の仕様に依存します。

インテリジェントPDUで計測するよりも精度が下がります。

(3) 計測機器を使用する(富士通Modular Data Centerのオプション)

富士通Modular Data Centerでラックごとのブレーカーで消費電力を計測するオプションを選択した 場合に使用します。高精度の値を計測できます。

初期状態では「(2) ラック/グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計」の情報が表示されます。 変更する場合、以下のファイルを編集し、ServerView Infrastructure Manager Serviceサービスを再起動 します。

- ファイル名

<ServerViewインストールフォルダ>¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager¥SvfmConfig. properties

(デフォルト: C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥svism¥Manager¥SvfmConfig. properties)

- 編集箇所

#TotalPowerConsumptionMode TotalPowerConsumption=X

[TotalPowerConsumption]の値(Xの部分)を、表示する消費電力値に応じて、次のいずれかに修正 します。

1: インテリジェントPDUで計測

- 2: ラック/グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計
- 3: 計測機器を使用する

#### • 省電力制御

ラック/グループに対して消費電力の上限値を設定し、サーバの省電力制御が行えます。 例えば、ラックの消費電力の上限値を10 kWと指定した場合、ラックに最大消費電力が400 Wのサーバが 30台搭載されていると、最大12 kWの消費電力となる場合が考えられます。

このとき、30台のサーバの優先度を設定しておくと、各サーバの消費電力状況をモニタリングしながら、 トータルで10 kWを超えないように、パワーキャッピングの比率を替えて、省電力制御を行います。 また、ICT機器の吸気温度/CPU温度のしきい値超過検出やファシリティ機器からのイベント受信を契機 に、すべてのサーバの消費電力を最小値にすることができます。

[消費電力制御設定] 画面を表示するには、[Facility Manager] 画面で次のどちらかを選択し、右クリックして表示されるメニューで [消費電力制御設定] をクリックします。

- [一覧] タブのツリーに表示されるラック

- [グループー覧] タブのツリーに表示されるグループ

[消費電力制御設定] 画面は、[カタログ] タブ、[ポリシー] タブ、[スケジュール] タブから構成されます。 初期状態では [カタログ] タブが表示され、設定内容に応じて、[ポリシー] タブ、[スケジュール] タブが 有効になります。

■ [消費電力制御設定] 画面 - [カタログ] タブ

	Rack	-1 消費電力制御	設定		×
カタログ   ボリシー   スケジュール 機器	定格電力	固定電力値	消費電力	優先度	
SW CFX2000R-2	300	Г			^
SW CFX2000R-1	300	E			
ST DX20053	300	되			
ST DX100S3	300	되			
SV RX4770M1	300	Г		Medi 💌	
SV RX2520M1	300	Г		Medi_ 👻	
SV RX300S8	300	Г		Medi 👻	
SV RX100S8	300	Г		Medi_ 💌	
SV RX200S8	300	Г	82w	Medi_ 💌	
SV BX900S2	300	되			
SV BX920S3-1	300	Г	138w	Medi *	
SV BX920S3-10	300	Г		Medi_ 💌	
SV 8X920S3-11	300	Г		Medi_ 💌	×
	9000 ₩	900 w	1120 w		
デフォルト				設定開はる	

項目	説明
機器	選択したラック/グループに搭載されているICT機器を表示。
定格電力	ICT機器の定格電力を入力。
[固定電力値] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、定格電力で指定された値を消費電力値とし
	て扱う。
	消費電力を計測できない装置が搭載されている場合に使用する。
	消費電力を計測できない機器として、FCスイッチ(Brocade製)などがある。

項目	説明
消費電力	計測した消費電力値を表示。
優先度	省電力制御を実行する場合の優先度を選択。IAサーバのみ有効。
	- Critical
	業務優先度が高く、性能を確保する場合に指定。
	- High
	Criticalよりは性能低下が許容できる場合に指定。
	- Middle
	Highよりも性能低下が許容できるが、Lowほどは積極的に行わない場合に指定。
	- Low
	ラック全体の状況を見ながら、積極的に省電力制御を行う対象とする場合に
	指定。
合計	定格電力、固定電力値、消費電力の合計を表示。
[デフォルト] ボタン	表示されているすべての機器の定格電力の値を300 Wに設定。
[設定] ボタン	指定した値で、各機器の情報を設定。
	設定すると [ポリシー] タブが有効になる。
[閉じる] ボタン	画面を閉じる。

## ■ [消費電力制御設定] 画面 - [ポリシー] タブ

		Ra	ck-1 消費	電力	力制得	明設定			)
りょうび ポリシー スケシ	7ュール								
	上限值		固定值			設定値			
<i>አ</i> ኢቃሬ1	8000 v	• -	900	w :	- [	7100	w	実行	
<u> </u>	6000 v		900	w :	- Г	5100	•	現行	
スケジュール用	6000	e -	900	w :	- [	5100	•	実行	
174								実行	
								設定 日	北る

	項目	概要
カス	ጶፚ1	
	上限值	省電力制御を行うときの、ラック/グループの上限値を指定。
		固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となる。
	[実行] ボタン/[解除] ボタン	[設定] ボタンをクリックすると使用できるようになる。
		クリックすると、「カスタム1」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称
		が [実行] から [解除] に切り替わる。
		[解除] ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が [解除]
		から [実行] に戻る。
カス?	タム2	「カスタム1」とは別の要因で省電力制御を行う場合に使用。
	上限值	省電力制御を行うときの、ラック/グループの上限値を指定。
		固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となる。
	[実行] ボタン/[解除] ボタン	[設定] ボタンをクリックすると使用できるようになる。
		クリックすると、「カスタム2」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称
		が [実行] から [解除] に切り替わる。
		[解除] ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が [解除]
		から [実行] に戻る。
スケ	ジュール用	スケジュールを設定して省電力制御を実行する場合に使用。
		実行スケジュールは、[設定] ボタンをクリックし、[スケジュール] タブで設定する。
	上限值	省電力制御を行うときの、ラック/グループの上限値を指定。
		固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となる。
	[実行] ボタン/[解除] ボタン	[設定] ボタンをクリックすると使用できるようになる。
		[スケジュール] タブで実行スケジュールを設定し、[実行] ボタンをクリックす
		ると、スケジュール設定に従って「スケジュール用」の上限値で省電力制御が
		実行され、ボタン名称が [実行] から [解除] に切り替わる。
		[解除] ボタンをクリックすると、スケジュール設定が解除され、ボタン名称が
		[解除] から [実行] に戻る。「スケジュール用」の上限値で省電力制御が実行中
		の場合は停止される。
327	<b>マム</b>	
	[実行] ボタン/[解除] ボタン	クリックすると、省電力制御可能なすべてのサーバの消費電力値が最小値に変
		更され、ボタン名称が [実行] から [解除] に切り替わる。
		[解除] ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が [解除]
		から [実行] に戻る。
[設定	] ボタン	入力値を設定。設定すると [ポリシー] タブが有効になる。
		「カスタム1」、「カスタム2」、「スケジュール用」で入力した上限値を設定し、
		省電力制御を実行可能にする。「スケジュール用」の上限値を入力した場合、[ス
		ケジュール] タブが有効になる。
		実行するには、各項目の [実行] ボタンをクリックする。
[閉じ	る] ボタン	画面を閉じる。

■ [消費電力制御設定] 画面 - [スケジュール] タブ

18					
	「月曜日 「金曜日	□ 火曜日	「水曜日		
				19	定

項目	説明
開始時間、終了時間	省電力制御を行う開始時刻と終了時刻を指定。
曜日	スケジュール設定による省電力制御を行う曜日を指定。
	チェックボックスをオンにした曜日で、指定した時間に省電力制御が行われる。
[設定] ボタン	指定した時間と曜日を実行スケジュールに設定。
[閉じる] ボタン	画面を閉じる。

#### 5.1.10 [FirstSight] 画面

[FirstSight] 画面では、ハードウェアの情報、ソフトウェアの情報、仮想マシン、レポートおよびイベントログ、消費電力などを表示し、システム全体の情報を1つの画面で管理できます。

ここでは、[FirstSight] 画面を機種ごとに説明します。 FirstSightのサポート機種などの最新情報については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。 http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

#### ① 情報

- [FirstSight] 画面の表示には1分程度かかります。
- 複数の [FirstSight] 画面を同時に表示することはできません。

- SNMPサービスで使用するコミュニティ名は、システム内で同一にしてください。
- 未サポート機器の場合、情報は保証されません。直接、MMB・iRMCにアクセスして確認してください。
- 監視対象サーバにアクセスできない場合、情報は取得できません。
- 情報を取得するためには、OSのアカウント/パスワード、MMB・iRMCのログインアカウントおよ びコミュニティ名などが正しく設定されている必要があります。 また、サービスのアカウントの設定が必要な場合があります。 機器プロパティから上記の設定値を変更した場合には、[FirstSight] 画面をいったん閉じて、表示し 直してください。
- 管理用サーバからADサーバ/NTPサーバ/DNSサーバなどに接続できない場合、情報が取得できない場合があります。
- サポート機器を選択したにもかかわらず「FirstSight未サポート機器です」と表示された場合、モデル名が誤っている可能性があります。該当機器のモデル名が正しく登録されているか確認し、誤っている場合には該当機器の[機器プロパティ]画面で修正してください。

モデル名は大文字、小文字が区別されます。また、適切な位置に半角スペースが入力されている必要があります。

(例: PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100 S3、PRIMEQUEST 2400S)

■ PRIMERGY BXシリーズ



oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-14 10:02:05	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-13 22:02:06	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	3	2013-11-13 22:00:54	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-13 21:59:42	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-13 21:58:29	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-13 21:57:16	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-13 21:56:03	root	
oot@192.168.200.119 にログインできません	8	2013-11-13 21:54:53	root	
		0010 11 10 01.50.00		*

■ PRIMERGY RXシリーズ



レポートイベントログ				
メッセージ	タイプ	日付と時刻	ユーザー	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:43:56	root	*
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:42:27	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:41:08	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:40:04	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:38:56	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:37:46	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:36:24	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:33:42	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:32:24	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:31:20	root	
root@192.168.140.81 にログインできません	8	2013-11-23 18:30:07	root	
	-			<b>_</b> _

■ PRIMEQUEST 2000シリーズ



図中の(1)~(5)の部分に表示される内容について、それぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	正面	<ul> <li>PRIMERGY BXシリーズの場合 PRIMERGY BXシリーズのシャーシの正面に搭載されているサーバの構成を 表示。 マウスカーソルを合わせると、名称が表示される。 機器画像(サーバブレードまたはストレージブレード)もしくはスロットを 選択すると、選択した機器またはスロットの情報が「(4)詳細情報表」、「(5) レポート/イベントログ」に連動して表示される。</li> <li>PRIMERGY RXシリーズの場合 PRIMERGY RXシリーズの外観を表示。</li> <li>電源がONの場合、サーバブレードおよびサーバ外観の電源を示すLED部分が 緑色に点灯し、状態(ステータス)を示すアイコンが表示される。電源がOFF の場合、外観の電源を示すLED部分が消灯する。 アイコンについては「54、アイコン・画像」参照</li> </ul>
(2)	背面、機器情報ツリー	<ul> <li>PRIMERGY BXシリーズの場合 PRIMERGY BXシリーズのシャーシの背面に搭載されているサーバの構成を 表示。 マウスカーソルを合わせると名称が表示される。</li> <li>PRIMEQUEST 2000シリーズの場合機器情報ツリーを表示。このツリーで選 択した項目により、「(4) 詳細情報表」に表示される詳細情報が切り替わる。</li> <li>各機器には、状態(ステータス)を示すアイコンが表示される。</li> <li>アイコンについては「5.4 アイコン・画像」参照。</li> </ul>

No.	項目	説明
(3)	消費電力(W)	10分間に消費されたシステム平均消費電力を表示。 履歴は10分ごとに記録され、最大3件表示。
		グラフの縦軸(目盛りの最大値)は100V電源に接続した場合の最大消費電力 を表示。
(4)	詳細情報表	選択した機器の詳細情報を表示。 表示される項目については「[FirstSight] 画面 - 詳細情報表 項目説明」参照。
		表示される項目は選択された機器により異なる。また、機種により表示されな い項目もある。
(5)	レポート イベントログ	CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、ストレージ使用率(%)のレポートと、 イベントログを表示。 - CPU使用率(%) CPU使用率(%)を表示。 [FirstSight] 画面表示開始から10分ごとに最大3件表示。 - メモリ使用率(%) メモリ使用率(%)を表示。 [FirstSight] 画面表示開始から10分ごとに最大3件表示。 - ストレージの使用率(%)を表示。 [FirstSight] 画面表示開始から10分ごとに最大3件表示。 - イベントログの使用率(%)を表示。 [FirstSight] 画面表示開始から10分ごとに最大3件表示。 - イベントログ(ホスト)のうち、警告、異常のカテゴリのイベントか ら最新の20件表示。 イベントログの表示には20秒程度かかる場合がある。 イベントログにマウスカーソルを合わせると、ログメッセージがポップアッ プ表示される。

① 情報

- 消費電力情報が表示されるタイミングと、レポート情報が表示されるタイミングは同期しない場合が あります。
- 監視対象サーバのOSと通信できない場合、レポート、イベントログなど表示項目中の一部の情報は 取得できません。
- イベントログを正常に取得できないとき、収集中の状態が続く場合があります。10分以上続く場合
   は、Facility Managerのすべての画面をいったん閉じて、表示し直してください。
- サーバおよびブレードサーバの電源がOFFになっている場合は、非搭載と表示される場合があります。
- 管理サーバ自身を監視対象とした場合、イベントログや仮想マシン情報は表示できません。

項目	説明
製造モデル	製造モデルを表示(*1)
製造元	製造元を表示(*1)
製造名	製造名を表示(*1)
ユニット図番	ユニット番号を表示(*1)
システムタイプ	システムタイプを表示(*1)
システムシリアル番号	システムシリアル番号を表示(*1)
システム製造元	システム製造元を表示(*1)
製造名/モデル名	製造名/モデル名を表示(*1)

[FirstSight] 画面 - 詳細情報表 項目説明

#### [FirstSight] 画面 - 詳細情報表 項目説明 (続き)

項目	説明				
製造モデル	製造モデルを表示(*1)				
部品番号	部品番号を表示(*1)				
シリアル番号	シリアル番号を表示				
識別シリアル番号	識別シリアル番号を表示(*1)				
ファームウェア版数	ファームウェア版数を表示(*1)				
BIOS版数	BIOS版数を表示				
ハードウェア版数	ハードウェア版数を表示				
iRMC版数	iRMC版数を表示(*1)				
OSの種類	OSの種類を表示				
OSの版数	OSの版数を表示				
CPUの情報					
ソケットの位置	ソケットの位置を表示				
状態	状態を表示				
モデル	モデルを表示				
周波数	周波数を表示				
メモリの情報					
ソケットの位置	ソケットの位置を表示				
状態	状態を表示				
種類	種類を表示(*1)				
容量	容量を表示				
メザニンカードの情報					
搭載位置	搭載位置を表示				
状態	状態を表示				
種類					
PCIアドインカードの情報					
状態	状態を表示				
種類	種類を表示				
ディスクドライブの情報					
ベイ	ベイを表示				
状態	状態を表示				
容量	容量を表示				
種類	種類を表示				
仮想マシンの情報					
名前	名前を表示				
状態	状態を表示				
電源・FAN					
搭載位置	搭載位置を表示(*1)				
状態	状態を表示 (*1)				
種類	種類を表示 (*1)				

\*1: 機種によっては表示されない。

#### 〕情報

 [ディスクドライブの情報]や [PCI アドインカード]を表示するためには、事前にServerView RAIDや ServerView Agents、ServerView ESXi CIM Providerなどのインストールおよび設定が必要な場合が あります。

ServerView RAIDをホスト名で登録した場合、通信不可と表示され、ディスクドライブの情報やPCI アドインカードの情報は取得できません。

# 5.2 [Facility Browser] 画面

[Facility Browser] 画面は、監視対象の機器を登録するための画面です。 ISMの管理者権限を持つユーザーのみ操作できます。 監視対象の機器を、構成情報定義ファイルを使用して一括登録します。

ServerView							
サーバリスト	管理者設定	サーバデータ	イベント	サーバ濫視	アップデート	インフラ	セキュリティ
						インフラ管	PUL
<u>Home</u> >> インプ	這理						
Facility Mana 一括登錄	ager   Facility	y Browser   <u>Pro</u>	ofile Mana	uger   Setup   ]	Maintenance		
				7741	レを開入 (1	)	
(2) 基合性	100E22	<u>重</u> 總 (3)		[[]]	(4	)	

図中の(1)~(4)の部分に表示される内容について、それぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	[ファイルを開く] ボタン	一括登録用の構成情報定義ファイルを選択するための画面を表示。
		選択したファイル名が、左のボックスに表示される。
(2)	[整合性確認] ボタン	構成情報定義ファイルに記載された情報のうち、以下の項目の重複がないかを
		確認。
		異常が見つかった場合、警告を表示する。
		- IPアドレス
		- 登録名称
		- ラック搭載位置(スロット番号)(*1)
(3)	[登録] ボタン	整合性を確認した構成情報定義ファイルの内容を登録。
(4)	[登録数表示] ボタン	ノードライセンス数とISMに登録済みのノード数を表示。

\*1: PRIMERGY BXシリーズについては、シャーシ内でスロット位置の重複がないかを確認する。

# 5.3 [ログ収集]画面

[ログ収集] 画面では、ログ収集の対象とする機器を選択し、収集したログをダウンロードできます。

#### 5.3.1 [ログ収集設定] 画面

[ログ収集設定] 画面を使用して、ログ収集の対象とする機器を選択します。ログ収集の設定後、設定内容 を反映するためにログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)の再起動が必要です。

- 1. [Setup] [設定] [ログ収集設定]から、ログ収集の対象とする機器を選択します。
- 2. リストからログ収集の対象となる機器のチェックボックスをオンにし、[登録] ボタンをクリックします。

対象機器にServerView Agentsがインストールされている場合は [SVAgent] チェックボックスをオン にします。

/infi	ra-manvm-1	46.local.com:3170/?Lan	g=ja - インフラ管理 @ i	infra-manvm-1	46 - Windows Internet Explore	r 🗕 🗆 🗙			
ServerView ユーザ: Administrator ログアウト FujitSU									
サーバリスト 管理者設定 サール	(データ   イベン	ト 「 サーバ監視 「 アップデート	インフラ ネットワーク	セキュリティ		ヘルプ			
	インフラ管理								
Home >> インフラ管理	Home >> 化フプ応引								
Facility Manager   Facility Brows	Facility Manager   Facility Browser   Profile Manager   Setup ServerView Infrastructure Manager V1.10.11								
<ul> <li>         ▼設定         ● DHCP設定         ● プロアイル適用動作設定         ● データイルボート発行         ● 仮想管理ソフト設定         </li> </ul>	▼ 設定 0 OHCP設定 0 プロマイル通用が指数定 0 データイルオー実行 の 気物を持ついます。					最新の状態に更新			
	機器名	1P7ドレス	モデル名	ホスト名	動作OS	SVAgent			
	EXSUIS2-	1 192,158,140,50	PRIMERGY BXSUU 52	-					
	DV10022	4 102169140.00	CFA2000R	-	-	-			
	BX300S7-	1 192 168 140 60	PRIMERGY BX200 S8	VMW51111-136	VMware ESXi 5				
	E RX30057-	2 192,168,140,40	PRIMERGY RX200 S8		VMware ESXi 5				

① 情報

- 機器名が赤で表示されている機器はログ収集対象には設定できません。
- ServerView AgentsがOS上に動作している場合、必ず [SVAgent] チェックボックスをオンにしてください。[SVAgent] チェックボックスがオフの場合、ServerView AgentsとISMのログ収集機能の二重通報になります。
- サーバをログ収集対象に設定するには、各パラメータ(IPアドレス/ログインID/パスワード/モデル名/ホスト名/OS名)の設定が必要です。

設定方法については、「5.1 [Facility Manager] 画面」を参照してください。

- 集約スイッチやストレージは、ホスト名、OS名、SVAgentの設定は不要です。
- コンバージドファブリックスイッチブレードのログは集約スイッチ(CFX)で収集できます。
- 3. OSの管理ツールの [サービス] から [ServerView LogCollect and Checker] を選択し、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動します。

ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)が再起動すると、監視対象機器情報が反映されます。

① 情報

ログ収集設定を変更した場合には、ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)の 再起動が必要です。

再起動しないと、監視対象の機器のログ収集や監視ができません。

#### 5.3.2 [ログ収集]画面

[ログ収集設定] 画面を使用して収集したログをダウンロードします。

- 1. [Facility Manager] [ログ収集] をクリックします。
- 2. 対象の機器を右クリックし、表示されるメニューで [ログダウンロード] をクリックします。

S ServerView					ユーザ: Admi	inistrator <u>미グアウト</u>	FUĴĨTSU
サーバリスト 管理者設定 サー	-バデータ イベント	サーバ監視 アップデート	インフラ ネットワーク セキュリ	IF-r			ヘルプ
			インフラ管理				
<u>Home</u> >> インフ <del>フ管理</del>							
Facility Manager   Facility Bro	wser   Profile Mana	ger   Setup			ServerView Inf	rastructure Manager '	V1.10.11
▶一覧 ▼ 0500年	口グ収集						
	機器名	IPアドレス	モデル名	ホスト名	動作OS	SVAgent	
	BX900S2-1		PRIMERGY BX900 S2	DAAD R		無	
	CFX2000R-1	192.168.140.11	GFX2000R			無	
	DX100S3-1	192.168.140.30	ETERNUS DX100 S3			無	
	RX300S7-1	192.168.140.60	PRIMERGY RX200 S8	VMW51U1-136	VMware ESXi 5	無	
	-	127.0.0.1	-	Infra_Management	-	-	

3. ダウンロード画面が表示されたら、収集するログの[選択] チェックボックスをオンにして、[ダウン ロード] ボタンをクリックします。

/-731.	/一覧:	
No	選択	File Name
1	~	BX900S2-1_192.168.140.50_201312091706z ip
2	~	BX900S2-1_192.168.140.50_201312091705zip
3		BX900S2-1_192.168.140.50_201312091704z ip
4		BX900S2-1_192.168.140.50_201312091703z ip
5		BX900S2-1_192.168.140.50_201312091702z ip
e .	-	EX(000E0 1 100 100 140 E0 001010001301 1

選択したログがローカルPCにダウンロードされます。

〕情報

ソフトウェアの保守情報は、ISMの [ログ収集] 画面の「Infra\_Manager」からダウンロードできます。

## 5.4 アイコン・画像

[Facility Manager] 画面で表示されるアイコンは以下のとおりです。

### 5.4.1 状態(ステータス)

アイコン	説明
٥	正常に動作しています。
1	警告の状態です。
8	異常の状態です。
0	無応答の状態です。または、FirstSightでは未サポートの機器です。
0	アクセスプロトコルで認証エラーが発生しています。

## 5.4.2 メッセージー覧

メッセージ	説明
通信不可	対象のサーバと通信不可
対象外	対象のサーバでは対象外の機能
情報取得中	対象のサーバは情報取得中

# 第6章 エンドユーザー使用許諾契約書

## 6.1 高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造 されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送 システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、 極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危 険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたもので はありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

## 6.2 安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使い になる前に、本書を熟読してください。また、本製品を安全にお使いいただくためには、本製品のご使用 にあたり各製品(ハードウェア、ソフトウェア)をご理解いただく必要があります。必ず各製品の注意事 項に従ったうえで本製品をご使用ください。 本書は本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

### 6.3 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

## 6.4 著作権および免責事項

本書を無断で複載・転載することを禁止します。 本製品の運用を理由とする損失、免失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねます。 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

# 6.5 輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出又は提供する場合は、外国為替及び外国貿易法及び米国輸出管理関連法規等の規制 をご確認の上、必要な手続きをおとり下さい。

